22 de Junho de 1928 No. 558

Noticias do Brazil

昭和三年六月廿二日　第五百五十八號　金曜日

日和西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado Semanalmente
Rua Fagundes, 16
Caixa, H — Tel. 2-5695
S. Paulo, Brasil
Proprietario e Editor
SEISAKU KUROISHI

ASSIGNATURA
Por Anno.....30$000
" Semestre.....16$000
" Mez.....2$800
" Semana.....$700

同胞發展廿周年記念號

同胞發展廿周年記念號發刊に就て

時の經つのは疾いものである。我が社が同胞發展十周年記念號を發刊して、その發展を祝したのは、つい此の頃のやうに思つてゐた。所がその後十年は何日の間にか經ち、今日は我が同胞の、ブラジルに入つた二十周年を記念する爲め、二た昔に對する記念號を發刊することになつたを、今更らの如く感せざるを得ないのだ。

然し事實は何處までも事實である。二十年前に生れた小供は、最早や立派に成長して一人前の青年となり、二た昔前の壯者は既に功を收めて、樂隱居氣取りで居る者もあるから、俗にいふ二た昔冷靜に考へて、決して短かしとは云ひ得ない。

然らば此の短かからざる期間に、ブラジルに在る我が同胞は、一體何を爲したかと云ふに、もとより概括的ではあるが、我が同胞のブラジルに於ける、それよりも、堅實で且つ永久性を帶ぶると共に、在住國の官民から好感を以て迎へられてゐると云ふのが一つの手柄なのだ。

尤も二十年前に於ける最初の移民の成績は、怠業、罷業、退耕等續出したる爲め、日本移民は珈琲園働きに適するや否やの疑問さへ起つたのであるが、六耕地に分配された中の一つの、平野運平氏通譯の任に當れるガタパラ耕地は、雇つた者共に滿足し永年其所に働ける伊太利移民よりもヨリ以上の成績を擧げたので、珈琲園勞働者なら日本人に限ると云ふ聲も上り、州政府側でも兎に角試驗的と云ふのでその後も繰返へして日本移民の渡來を許したのではあるが、今から思へば、第一回日本移民の成績は慥かに落第點で、永久に落ちずに濟んだを倖ひとする。

が、然し此の不成績と云ふのも、獨り日本人側のみで負擔すべきものではなく、耕地側での待遇法が日本人に適せなかつたが爲めに種々な問題を惹起し、から思へば、第一回日本移民の成績は慥かに落第點で、永久に落ちずに濟んだを倖ひとする。

が、然し此の不成績と云ふのも、獨り日本人側のみで負擔すべきものではなく、耕地側での待遇法が日本人に適せなかつたが爲めに種々な問題を惹起し、

なかつたが爲起さずも可い問題を起したと云ふに過ないのだ。斯の如き事情で第一回移民は洵に芳しからざる成績ではあつたが、困難は人を璞にすると共に、時は物事を成就するてふ格言の如く、我が同胞もブラジルでは、廿年の間に可なり多くの事業をした事丈は肯定し得る。

而してその動機はと云へば、矢張り何んと云つても第一渡來の移民諸氏と、皇國殖民會社及び關係者とが、直接間接手引者となり今日の盛大を造つて呉れたのだから之は後の人の蒙れる恩義として、永久忘るべからざることである。

兎に角我が社は、此の記念深き同胞發展の廿周年を祝さんとして、茲に記念號を發刊したのであるが、若し我が社の此の擧が記念の意義に適ふなら、是れ吾人の以て幸ひとする處である。

ブラジルに於ける日本移民事業の沿革、

第一回移住民が笠戸丸に乘つて航となつたが、當時同會社も初めてのこと、ともかくも第一歩を伯國に印したのは今を距る廿年の昔、明治四十一年六月であつた。

一回の試みではあり、又伯國事情も充分に解つて居なかつたし、其取扱ひに依つて來た所の第一回移住者も言語の不通やら指導の不行届やら、これが明治四十三年で、越へて明治四十五年には第三回の移住者を送つたのである、この前後二回に渉る竹村移民は依然水野龍氏に手がけられた爲めに、第一回の移住民と共に皇國移民と稱せられてゐる。

これは日本に既に創立されゐた皇國殖民株式會社は水野龍氏を代表として明治卅九年伯國に派遣して諸方面に渉つて調査をさせ、又一方聖州當局とも交渉をさして移民輸送の契約に調印させ、その結果第一回移住者の來

輸送する必要もあつたので、水野氏はやはり氏と同國高知縣出身の多額納稅議員竹村與右衛門氏を說伏して新らしく竹村植民商館を創立して、やはり水野氏を代表として再び聖州政府に交渉せしめ、第二回の契約を得て

移住者を送つた、これが明治四十三年で、越へて明治四十五年には第三回の移住者を送つたのである、この前後二回に渉る竹村移民は依然水野龍氏に手がけられた爲めに、第一回の移住民と共に皇國移民と稱せられてゐる。

これ等移住者の奮闘は逐次良好の結果をもたらし、前途に光明を認めるに至つたが、これより先き淺田正文氏を社長とする東洋移民合資會社もブラジルの廣大で且つ有望であるのに着眼し、また竹村商館に倣つて移民を送つた、これが竹村第二回移民(皇國第三回)と同年の明治四十五年のことであつて、この輸送に關する契約に當つたのは同社代表者神谷忠雄氏である。

次いで大正二年の春竹村は一船を、同じく東洋移民會社も一船を伯國に送り、同年の秋又兩社とも各一船を出し、その翌年即ち大正三年の春兩社とも各一隻の移民輸送船を送つた、所がこの年聖州政府は突如、補助移民の渡來を拒絕して、我國の對伯移民事業に大打擊を與へ、日本政府の意向は兎も角この際遠慮するがよからうと云ふことになつて、第一回移住民の渡來以後すでに十船に及び、今後が期待されつゝあつた際ではあつたが茲に中絕を餘儀なくされたを殘念とする、これより先き竹村商館及び東洋移民會社が伯國へ移住民を送つて、共に相當の成績を擧げてゐる狀況を見て、森岡移民株式合資會社もこの對伯移民事業に參加を企て、大正三年西坂萬吉氏を代表として聖州へ派遣し交渉せしめてゐたが、恰もそこへ補助移民の拒絕と云ふ突發事件を生じその爲めに竹村及東洋移民會社からも州當局に運動を試みることになり、茲に三巴の競爭運動がはじまり事態紛糾せんとする狀況に向ひつゝあつたので、これではいけない、各社は州當局との交渉、その他すべてこの移民事業にたづさはる限り各社は歩調を一にしなければならぬ、そのためには移民會社の合同が必要だと云ふやうな說が高まり、現在聖市滯留の青柳郁太郎氏などもその高唱者であつたのだ。

則ちこれが動機となつて、大正五年にはブラジル移民組合が成立した、而してこれは竹村商館(この頃は南米植民會社と改名してゐた)、東洋移民及び森岡移民の三社のブラジルに於て歩調の一致を計る爲めの合同機關であつたが、大正五年同組合成立と同時に組合は州當局との契約交渉のため代表者神谷忠雄氏を派遣し、神谷氏の圓滑なる交渉の結果大正六年より同九年の四ヶ年間年々五千人づゝ合計二萬人を州の補助を得て入國の契約を遂げ、一時中絕のかたちにあつた移民は復珈琲園に來り、大正三年以來中絕の移民事業は茲に復活を見たのである。

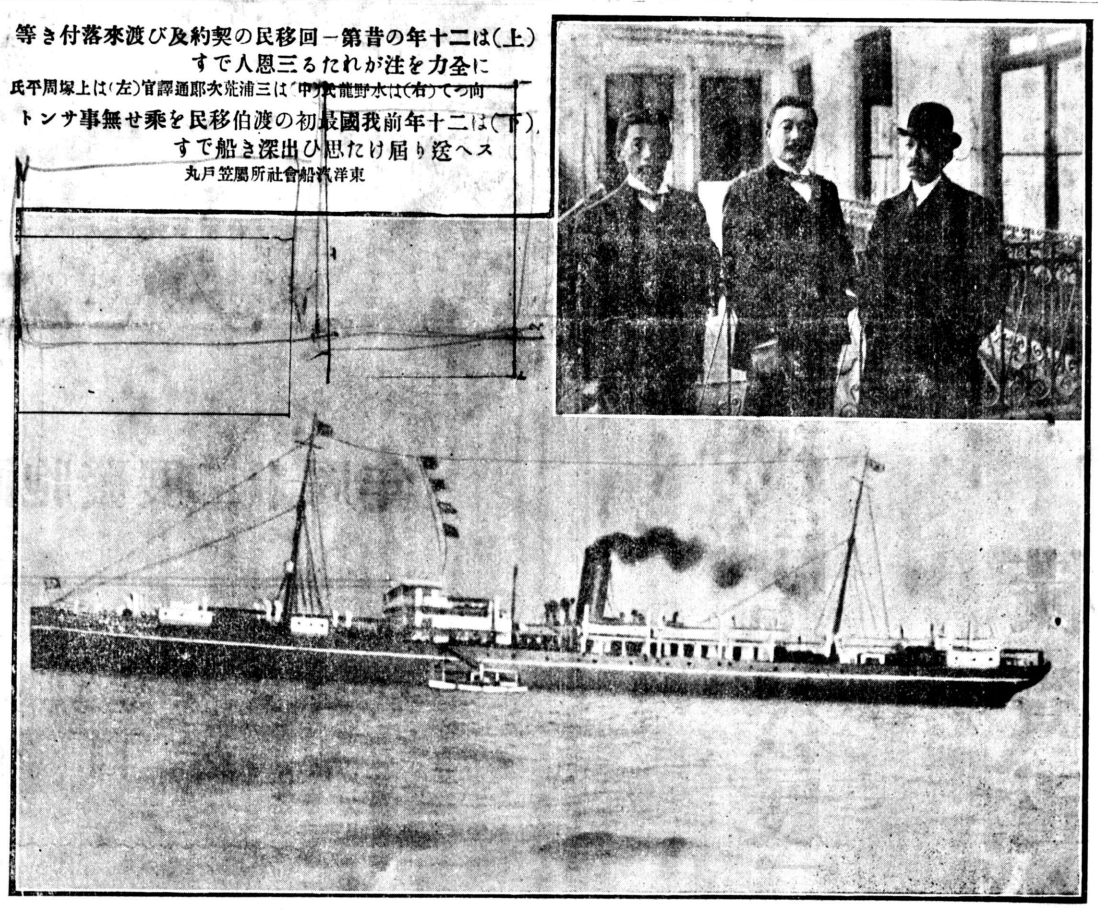
所がブラジル移民組合成立の翌年の大正六年には海外興業株式會社の成立が實現した、これは從來存在してゐた各移民會社の大合同の結果で即ち東洋移民會社、南米植民、日本植民等の諸會社を合併して成立したもので、ただ森岡移民株式合資會社のみは諸種の利害關係上合併出來なかつたが爲め、日本に於ける移民會社は海外興業と森岡移民との對立となつたが、然し伯國に於ける事業だけは同一の歩調を取る必要があるので、その爲めブラジル移民組合は依然存立して海興と森岡の機關でそのブラジル移民組合聖市支部長は第一回は狩谷三市氏、第二回は山田揚之助氏であつたのだ。

併し元來海外興業會社の成立は各移民會社の大同合併であり、森岡移民會社も早晩合併せらるゝ筈であつたのであるから大正十年遂に森岡移民會社も海外興業に買收合併され、同時にブラジル移民組合も消滅して茲にブラジルの移民事業は海興の一手に存することになり、而して現今に至つたものである。

記事は前後するが、これより先き聖州政府との特別契約によつてイグアペ郡で邦人植民地を經營する爲めに特種の植民會社があつた、それは大正二年に出來た資本金百萬圓のブラジル拓殖殖式會社で、この會社は移民會社でなく、その名の示つたのだ。

併し植民地經營會社、移民事業會社と云つても、同一精神で海外發展を計るものであるが故、この理由のもとに海興の成立と共にブラジル拓殖會社の買收合同が計畫されたが、聖州政府に對する營業上の手續きのため、兩社の合同は海興設立に間に合はずその後大正八年に至つて漸く合併の手續きを完了して、海外興業は植民地と移民との事業を一手に營むやうになつたのである。

更に大正十四年には、各海外協會の移住地經營が始まり、最近また海外移住組合の移住地購入があつたりして、是れから伯國に於ける我移植民事業は追々發展の時期に入るのであらうが、是等はまた他日合併されるものであるか何うかは今容易に斷定は下せない。



(上)は二十年の昔第一回移民の契約及び渡來落付き等
すべて人恩三るたれが注を力全に
氏平周塚上は(左)官譯通郎次荒浦三は(中)夫龍野水は(右)てつ向

(下)は二十年前我國最初の移民伯渡の船出深き思ひたけ届り送へす
トンサ事無せ乘を民移
丸戸笠屬所社會船洋東

日本移民二十周年
記念號發刊を機會に（上）
在クリチーバ　水野龍

伯刺西爾時報紙日本移民二十年紀念號を發刊するの企てあり、この移民發頭の一人たるの故を以て迂老が一言を求められたるは、深く之を光榮とする……眞の發頭人たる杉村辨理公使は移民輸送契約締結前に物故せられこの契約締契及第一回移民到着後に於るトラブルに對し多大の勢を惜まれざりし三浦通譯官は後總領事に榮任し聖市駐劄を命せられたるも病の故を以て辭退し、一昨年の暮故人となられたこの二氏に對してはかゝる機會に於ては今更に悼惜の情を新にする。

明治四十一年(千九百八年)笠戸丸によりて七百餘人の移民を送り來りてより爰に二十年、爾來斷續して來伯するもの約六萬人其歲月短しとせず、人數亦少しとせず、而してその來伯者の經過、現狀及び之に由つて起る日伯兩國の國際關係並に列國に及ぼさんとするこの影響の趨勢、移民問題を以て各國各自の經國策として之を取扱ふ現代に於ては、關心すべきもの少なからず隨つて之に善所するの方策、多少之れが建案を試みたりと雖も非才無力一も實行を見るに至らず空しく老をクリチーバの郊外に養ふの境涯、慚愧の二字尙心中を表白し盡し得ざるを憾む。

但だこの時報紙日本移民二十年紀念號を通じて、在留同胞諸君の一考を願ひたきは、在留同胞諸君の思想の紛雜を防ぐの方法甚だ稀れだ、迂老が如き無學素より之れが解釋を試みるべき器でない、但勅語を拜して感ずる存分の一端を述べて、在留同胞諸君と共に、研鑽の功を積んことを希望する。

明治天皇御製

思ふこと つらぬきすてゝ やまぬこそ
大和をのこの こゝろなりけれ

同胞伯刺西爾發展廿周年紀念號
發刊に寄して　公四位勲一等　有吉明謹書

朕惟フニ我皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ

皇祖は天照大神、皇宗は神武天皇即ち皇室の御先祖である、その御先祖が天

民輸送契約締結前に物故せられこの契約締契及第一回移民到着後に於るトラブルに對し多大の勢を惜まれざりし三浦通譯官は後總領事に榮任し聖市駐劄を命せられたるも病の故を以て辭退し、一昨年の暮故人となられたこの二氏に對してはかゝる機會に於ては今更に悼惜の情を新にする。

明治四十一年(千九百八年)笠戸丸によりて七百餘人の移民を送り來りてより爰に二十年、爾來斷續して來伯するもの約六萬人其歲月短しとせず、人數亦少しとせず、而してその來伯者の經過、現狀及び之に由つて起る日伯兩國の國際關係並に列國に及ぼさんとするこの影響の趨勢、移民問題を以て各國各自の經國策として之を取扱ふ現代に於ては、關心すべきもの少なからず隨つて之に善所するの方策、多少之れが建案を試みたりと雖も非才無力一も實行を見るに至らず空しく老をクリチーバの郊外に養ふの境涯、慚愧の二字尙心中を表白し盡し得ざるを憾む。

但だこの時報紙日本移民二十年紀念號を通じて、在留同胞諸君の一考を願ひたきは、在留同胞諸君の思想の紛雜を防ぐの方法甚だ稀れだ、迂老が如き無學素より之れが解釋を試みるべき器でない、但勅語を拜して感ずる存分の一端を述べて、在留同胞諸君と共に、研鑽の功を積んことを希望する。

朕惟フニ我皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ

皇祖は天照大神、皇宗は神武天皇即ち皇室の御先祖である、その御先祖が天

地位し萬物育するの道理を、國家組織として人間を整束し、之に安住せしめんとの神謨は、宏大悠遠にして、其慈愛護の經營施化は甚深篤厚なり（天照大神は天の神樣である、天と云ふても高空の蒼天ではない、天は清淨の義で、無始以來支配の權衡地を云ふ、今の地圖に於て何所と示すべき史傳は之なく、神樣と云ふも世界のあらゆる宗教に云ふ神樣と違ふ、神武天皇東征の時の詔勅に皇祖皇考乃神乃聖とあるたものと思はる、漢字の輸入と同時に漢土に行はれたる、相對報頂的土智を帶ひて來りたるため、日蓮聖人は、法華經は內典の孝經なりと喝破し、北宮仕を法華經と御思召せと示し、世を安んじ國を安んずるを忠となし孝となすと教ゆさせられたり、この詔勅に、忠孝を頭に克と字を加ゆさせ賜ひたるは特に深く注意すべき點である）

此レ我國飯ノ精華ニシテ敎育ノ淵源亦實ニココニ存ス

我國體即ち神の心と、臣民の心との感應によりて精華と咲いた忠孝は、政治學藝その他あらゆる人生資治に關する敎育の根本の存する所ぞとなり（以上は日本といふ國の出來た由來と、その出來榮え、人生の眞意義とを示させ賜ふたものと拜する）

爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭謙己レヲ持シ博愛衆ニ及シ學ヲ修メ業ヲ習ヒ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重ンシ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ

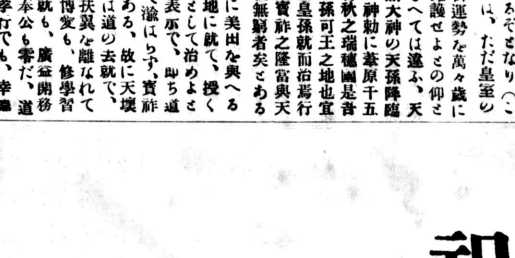
これは世間道德を修め、汎く智識を求め已れを研くべきを敎ゆさせ賜ふもので、克忠克孝の綱目だ（世の有ゆる宗敎道德の敎うる所は、各々多少の淺深はあるとも、この分際を出でぬ、これでは世界の始末はつかぬこと、現代世界の當相が語つて居る、併しこれが活動の第一歩だ）

以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ道ハ實ニ我皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ爾臣民ノ遵守スヘキ所ナリ

御運勢は萬々歲に擁護せよとの仰せと考へては違ふ、天照大神の天孫降臨の神勅に葦原千五百秋之瑞穗國是吾子孫可王之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之隆當與天壤無窮者矣とある

我臣民克忠ニ克孝ニ臨兆心ヲ一ニシ世々厥ノ美ヲ濟セルハ

神謨の宏遠深厚なる功德に感孚して發動する報恩の所作が克忠克孝だ、臨兆各々この忠孝に一心して、時は經つも色は替らず、その流行を影施するは（この境地に至て、凡我の心が神の心と圓融して神人一如する、この一如によりて始めて正眞の人となる、これが日本帝國臣民の眞面目だ、日本魂を宿す日本人とはこれだ、風を知るは智慧の根本で、風を報ずるは眷の根本との敎はこゝだ、忠孝の道は、我國にては漢字の輸入前には寧ろ完全に體現され



（その神樣で、日本を神國といふのはこれがためだ）

天照大神は子孫のために美田を與へるぞとではない、可王の地に就て、授くる所の三種の神器を心として治めよとある、神器は神の心の表示で、即ち道だ、道は三世を一貫して濫はらず、實祚は道と共に天壤無窮じある、故に天壤無窮の皇運扶翼と否とは道の去就で、順逆の分岐點だ、皇運扶翼な離なれては、孝友和信も、恭順愛敬も、修學習業も、智能啓發德器成就も、廣益開務も、重憲遵法も、義勇本公も零だ、道統が學者でも、泰岳が孝行でも、幸福秋水が人格者でも、共に逆賊たると等しく、今日の母國政海の巨頭でも、財界の富豪でも、高位榮爵を帶する輩でも公私を問はず其施設經營の天壤無窮の皇運扶翼に逸はざる限り、意識、無意識を問はず亂臣賊子たるは一なり）

祝同胞發展二十周年

海外興業株式會社
伯國支店

聖市
移民部
イグアペ
植民地
アニューマス
農場
サントス
南聖倉庫

祝同胞發展二十周年

横濱正金銀行
リオ・デ・ジヤネイロ支店

過去二十年

野田良治

南米最初の邦人移入國ペルーに於ける同胞發展の基礎漸く成らむとするまで、足かけ十年間在が、耕地に踏止まつて居たばかりの後、智利から更に當伯國に勤の後、智利から更に當伯國に轉勤を命せられ、當時の我公使館所在地ペトロポリスに着任したのは、伯國に於ける第一回日本移民到着の翌年即ち明治四十二年の五月二十七日であつた。爾來予は四回の賜暇歸朝中を除き、引續いて伯國に在勤し、直接間接に移植民關係事務に當つて居るから、前後十九年に亘れる予の伯國生活は、奇しき緣の絲によりて、邦人移住二十年の歷史と結着けられて居るといふよりは、寧ろ其の歷史に織込まれて居ると言つた方が適切であるかも知れぬ。

今日の如く事情が能く判らず、全然未知の國である伯剌西爾へ資本家などが想像さへも爲し得ざる底の大勇猛心を起して、日本船笠戸丸によりて初めて航破されたる一萬二千浬の遠距離を五十二日間を費して渡航し來つた第一回移住者が、デユモント耕地に於ける大葛藤を手始めに續々諸方の珈琲園から逃げ出すなど種々の失態を演じ評判悪しかりし爲、我政府は其の成行を注視したる上、第二回以後の渡航を許可すべきや否やを決する事になり、伯國行本邦移住民問題は止めるか續けるかの岐路に立つて居つた。

從つて明治四十二年九月下旬から十月下旬にかけての、予のサンパウロ州本邦移住民實況視察は、第二回以後の渡航者が續くか否かを決定する上に至大な關係を有するものであつた。

當時予が視察した六箇所の珈琲園には、若干名の幼兒を除き、左記の通り本邦農民が働いて居つた。

カナーン耕地	七家族	二三名
聖マルチニヨ耕地	八家族	二七名
ゲッダバラ耕地	一三家族	三四名
ソブラド耕地	二三家族	五二名
ザエアド耕地	一二家族	三二名
聖ジョアキン耕地	九家族	二三名
合計	七二家族	一九二名

即ち渡航全數の三分の一足らずと雖も、踏止まつて居たばかりで、其の上予が歸館する迄に更に十家族ばかり耕地から離退した。

これ以外の者は概略左の如く分布されて居つた。

前記以外の耕地勞働者	凡	四〇名
サンパウロ在住者	凡	一〇二名
サントス市在住者	凡	一一〇名
北西鐵道工事勞働者	凡	一二〇名
他州へ轉住者	凡	三八名
亞爾然丁國へ轉住者	凡	一六〇名

外に死亡者六名で、農業を好まざる者及農業不適當者は、無論耕地勞働者として全然失敗した者は、サンパウロ市に在る者は、家庭勞働、大工、鍛冶その他の手職に從事し、サントス市に在る者は大抵波止場人足として働き、生活費を支辨したる上、尙幾分の貯蓄は出來る狀態に在つた。

新なる移住地に同胞を送出して最初から好成績を擧げさせることは寧ろ不可能事である。種々の困難に遭遇し、幾多の經驗を得て、徐々に好結果が得らるゝといふ事を、ペルーに於て充分に實驗し來れる予にとりては、當時の伯國第一回移住者の成績は、決して悲觀すべきもので無かつた。その不成績なりし原因を究めて、之を排除すれば一回毎に成績の良くなることは必然と思つたから、此の方針で內田公使に復命し、同公使からは予が歸館した翌日即ち十月二十四日に、我外務省に宛て左の趣旨の電信が發せられた。

サンパウロ州本邦移住民の現況を視るに純農凡六十家族は珈琲園に落ちつき殘餘は日傭その他の勞働に從事し、孰れも相當の收益があつて、結果概して宜しき方である。しかしサンパウロ州官民の希望せる所は珈琲園勞働者であるから、次回の契約移住者は純農民の眞家族を精選し、遲くも明年四月中に到着させ條件でならば、墨國殖民會社に對し、渡航周旋方を許可相成りて宜しい。

この電信の趣旨は後に書面を以て詳述された事は勿論であるが

皇國第一回移民渡伯當時の特命全權公使內田定槌氏

明治四十二年中一時中止されて居つた伯國移住は、この一電によりて翌年再開され、豫定よりも一ケ月遲れの五月に第二回九百四十五名の渡航を見るに至つた。

第二回の成績は第一回に比すれば遙に優良ではあつたが、しかし耕地から逃出した者が可なり多かつた爲、明治四十四年中は又もや逆出見合せとなり、同四十五年以後は東洋移民會社も加はり、一方に於て漸次渡航者の數が增加すると同時に、他方移住者の成績も年々否一回毎に良好に赴き、土地を購入して獨立農となる人々も出來、遂に今日の如き盛況に達した。

盛況といふのは、十年乃至二十年前とを比較しての盛況であつて、既に多數の大富豪を出せる、歐洲某々國の移住者の盛況に比すれば、日本人の發展は漸く其の端緒に着いたに過ぎぬ。しかし此所まで達する爲最初數年間の渡航者の努力は實に絕大なるものであつた。その努力、大なる犧牲が集合し、それが土臺となつて伯國に於ける同胞發展の端緒が開かれたのであるから、吾人は伯國に於ける日本人移住の二十周年を祝するに當り、先進移住者、就中奮鬪精進して他の模範となるべき諸君の未だ世に知られざる功勞を大に表彰すると同時に、恰も陣頭に立つて戰死を遂げたる勇士の如く、不幸奮鬪中に斃れたる犧牲者の靈を弔ひ、且これを機會に各自今後一層勇往邁進の覺悟をすることが肝要と思ふ。

昔曰に、もある通り、蟹が長らくかゝつて、折角丹精して植えた柿の實は、熟した頃に後からやつて來る猿の爲めに喰べられて仕舞ふ。これが世態の常で、吾々官界に居る者でも、前任者は唯骨を折るばかりで、幸運な後任者は袖手して前任者の努力の結果を收むる場合が決して少くない、近年の渡航者と最初數年間の渡航者を比較すれば、前者は無駄骨折つた蟹であるやうにも思はれる。しかし吾人は幸運な猿を羨むよりも寧ろ蟹の貴重なる努力を賞揚せむとする者である。少くとも伯國に於ける邦人移住史に永遠に光輝を放つ者は、所謂成功者ではない。成功者の爲に土臺を築き上げたる隱れたる殊勳者である、最初の犧牲者である。

(四頁へ續く)

祝同胞發展二十周年
日本品直輸入商
中矢商店
サンパウロ市

Hachiya, Irmãos & Companhia
祝同胞發展廿周年
合名會社
蜂谷兄弟商會
伯國本店　リオ市
テオフイロ、オツトーニ街八五
支店　聖市
ブリガデイロ、トビアス街一一〇
日本店　名古屋市
東區撞木町三丁目五、六

Bazar Paulistano
K. UMEDA
Rua da Liberdade, 26 - A Telephone 2-5191 -- S. Paulo
祝同胞發展廿周年
バザール
パウリスタノ
梅田久吉
サンパウロ市

(三頁より續く)

顧くは伯國に於ける邦人移住史をして、單に二十年の一卷に終らしめず、卷を重ぬること無限ならんことを、而して益々其の内容の豐富ならひことを。

二十年昔は吾々に何を教へたか

青柳郁太郎氏談

ブラジル移民事業を最初に計畫したのは吉川泰次郎、佐久間貞一兩氏の吉佐移民合名會社で、吉佐はブラジル移民實行の爲め會社組織を改め近藤廉平氏其他郵船會社の重役數名を加へ東洋移民合資會社と成つた、然るに愈々土佐丸で移民を輸送せんとした時、移民乘込の間際に至り相手のアントニオ・ブラード氏から珈琲市價暴落の爲、サンパウロ州政府は移民渡航補助を停止したる故、移民輸送見合せられたしとの電報が來た、どうも仕方がないので會社に於ては折角神戸に集めた移民を各郷里に送還し船の借入賃や移民の始末の爲め大損害を蒙つた。

それより十年程經つてから、皇國殖民會社の水野龍氏は、宇治川先陣爭ひに於ける佐々木高綱の故智を學び東洋移民會社を出し抜きサンパウロに於て見事州政府と移民契約を締結した、之は水野氏の放れ技だつたが、其代り皇國殖民は東洋移民から、あとで隨分酷くしかへしされた。

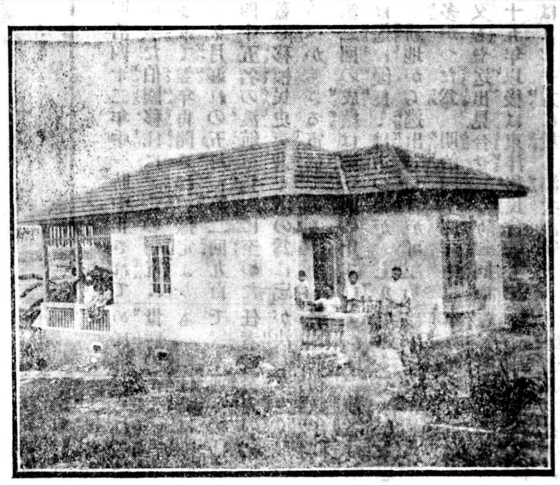
明治四十一年最初のサンパウロ行移民七百余人が神戸に集つた時も、或る問題の爲め輸送船笠戸丸の出帆許可を得ること遺はす移民はさわぐ、船主からは約束外碇泊の濟船料を請求され、水野氏其他皇國殖民の關係者は大に苦しんだ、移民のサンパウロ到着後も耕地でストライキ續出もう〳〵日本人はコリ〳〵だと日本移民に絶望の耕主もあつて最初の一二年間は到る處不成績であつたが、兎も角もブラジル移民の道開きは、今バラナに隱居の水野翁である。

明治四十三年私が初めてブラジルに來た時、ノロエステの入口に在るフアカ耕地に熊本縣人が珍らしく落付き働いてゐるとの話を聞き、ノロエステ視察の序でにフアカへ寄つてみた、同地在留邦人は二十家族程であつたと記憶するが、先達の人の言ふには、自分等も到着の初年は數ケ處動いたのですが何處でも滿足は得ませぬ、此處でも同樣不滿でしたが、さう〳〵動いてゐてはきりがないから兎も角も一農年目をつぶつて辛抱しやうといふことに相談を纏めて、一年居てみると間作の利益の馬鹿にならぬことが分りました、あとで耕地に來た人々に自分等の體驗を話した處、何れも會得し是等は初めより落付氣分を示し動かうとしません、この節は新舊共に皆滿足してやつてゐます、とのことであつた。

サンタスロトに眠る北島ドトールの墓碑

皇國殖民の當時の業務代理人上塚周平氏は其後獨立してノロエステ方面に於て自作農の鼓吹者となり終にブロミッソンに於て繁榮なる一大農村の基礎を築く正の初に於てはブラジルに來る者何れも自作農業を危險視し珈琲耕地に雇はれ賃銀を目的とし早く歸國しやうと思つてゐる者ばかりだつたから、自作永住主義の殖民事業は第一移民を得るに於て第二資本を整へるに於て容易でなかつた、幸に本國に於ては大浦氏其他有力者の熱心なる援助、又植民地に於ては白島、北島、藤田、橋田、大野諸氏の獻身的努力により幾多の困難に打勝つた人々の内、今や農家として又他の營業に於て一頭地を抽んづる者相當あるやうだ、勿論是等は當人の頭の働き、腕の働きに依るだらうが、其原因の一が時間であることを看過してはならに至つたが、最初の移民船で來ず、出足は甚だ鈍かつたが、漸次事業實行の歩を進めたのである。

遺憾なるは北島ドクトルの死去である、北島氏は大正二年桂植民地創立の初めより植民地の醫療衛生事務を担當し死する迄他意なく專心從事された、イグアペ植民地に未だ曾て惡疫の流行なく、眞に健康地なることを十五年間の統計により立證し得るのは、全く北島氏の周到なる用意、適切なる施設の結果で、同氏の植民地に對する功績は醫師としての行爲のみでなく其高潔なる人格により植民地の氣風を淨化するに與つて力あつたことである、從つて同氏はイグアペ地方に於て日本人ばかりでなく廣くブラジル人の尊敬する所となつてゐた。



努力の廿年に報ひられた宮田勝衛氏の住宅

就いては隨分苦心し著しく增加し其生活狀態も大に改善され今やブラジル生産界の一勢力として認めらるゝに至つたのは大なる進歩であるが、之に對し産業組織の未だ備はつて居らぬのは殘念である、農民が年三割四割の利息のつく金を借りて仕事をしてゐるやうでは、一朝不景氣に際會せば忽ち倒れること明白である、農民が高利貸の爲め苦しめられぬやう、又彼等の生産が常に相當の價を以て始末されるやうに、産業組織を適當に立てることは今日の急務であらう、この際ブラジル移民を奬勵せんとするなら、政府に於ても、民間に於ても先づ此點に注意せねばならぬ。(文責在記者)

ぬ、時間は成功の一大要素である。

私のブラジル關係は明治四十五年のイグアペ植民コンセッソンに始つたのであるが、ブラジル農業の實習所、獨立農業の準備場に利用するの得策であることを知つたからであら

努力の廿年

宮田勝衛

予は鹿兒島縣川邊郡西南方村坊の出生にて來伯前は大工職を以て業とした、明治四十一年皇國第一回移民として大器晩成は大陸に行くに限ると決心し來伯、サンマルチニヨ耕地に入りしも職人の故か辛棒しきれず、約二ケ月後自由解散の特典に浴し同職廿六人と共に邦人最初の工業者として聖市に入り、一年廣州と轉十餘の貯金を得て後サントス、廣州に於て熱帶病に罹り再び多少づゝ貯へを得たので、之を資本に聖市郊外の聖市に入り九ケ年に渉る苦闘に依サンタアマロのモロンビーに一アルケール牛の土地を借り、結婚後一年の要し農を營まし予は依然大工たらしめ、後一年購ひ自作農となり、同地に二アルケールスの土地を辛ふじて現在に迄漕ぎ付けた、家族結果として妻との間に三男四女を擧げ、前記二アルレスの外に聖市アクリマソンに百八十米突平方の土地を有ち、渡伯千時の苦痛に比すれば多少の餘裕を得たのが感謝してゐる。

M. HARADA
ENGENHEIRO
Rua Santa Thereza,2　1° andar, sala, 110-111　Tel. 2-3364　S. Paulo

祝同胞發展廿周年
公認技師
原田政平
サンパウロ市

祝同胞發展廿周年
瀬木商店
聖市コンセレイロ
フルタード街一二
バウルー支店
グアヤサラ支店

CASA JAPÃO
M. YOSHIDA
Rua Vergueiro, 18 ═══ S. Paulo

祝同胞發展廿周年
カーザ
ジヤポン
家具商
吉田政之進
サンパウロ市

過去を顧みる時

感謝なしでは居られない

パラナの隱居水野龍翁が聖州政府に交渉して補助移民入國の契約を得、上塚周平氏に率ひられた皇國第一回移民七百九十三名が、若葉かほる明治四十一年の四月廿八日に神戸を出帆して、同じ年の六月十八日に始めてブラジルの土を踏んでからもう廿年になる。彼等は長い航海の勞れも、たゞこの新天地に依つて樂しみの資を得やうとする新らしい氣持と、早くそれを掴まうとする心いつぱいの焦慮にまぎらされて、彼等より先着の移民見本の南樹鈴木貞次郎氏や、當時の五人男で今は故人になつた平野運平、仁平高、嶺昌氏及び現に生きてゐる加藤順之助氏それに先日歸朝した大野基尙氏等に卒ひられて元氣滿々とヂユモン、フロレスタ、サンマルチニヨ、カナーン、ガタバラ、ソプラードの諸耕地に入つて行つたしかし彼等が日本で聞いたり考へたりした程耕地はいゝ處でなく、それに言語の不通や、勞働條件が氣に合はないやらで、サントス入港當時、コレイオ・バウリスタノ紙に世界一の智的移民、衞生移民、規律正しき移民だなどゝ激賞されたに拘はらず結果は失敗に終つて彼等は不幸逆境に陷つた。

爾來星うつり月かはり春秋めぐつて廿年と云ふやうな按配で、日本では大正の改元をはじめ、歐洲大亂のまきぞへで日獨戰爭の勝利があり、關東地震につゞいて但馬丹後の大震から、北米の排日、昭和の改元、普選の實施と云ふ風に樣々な出來事があり、同樣にブラジルでも大統領が六回替り、革命の騷ぎがあつたり、實施か廢棄か知らぬが貨幣制度の改正があつたりして隨分變化があつた。

また移民の上から云つても一時悲境に陷つた吾等の先輩も、二十年の時の流れに乘じて漸次向上發展し、今日では歐羅巴諸國の移民と比較して優つても劣る處が無いだけに其の眞價を認められるやうになつて來た、なほ言葉を換へて言ふならば、只理由もなく色の黃ろい東洋民族と云ふ外見の異いから、伯國人やその他の國人から一種の輕侮の眼を以て見られ、やれ日本人は一度に何人子供を生むかだの、汽車電車はあるかだのと滑稽な愚問をあびせかけられながら、わが同胞は第一回移住者以來の先輩の血と汗の尊い努力を土臺にして、その昔伯國が外國から米を輸入してゐたものを轉じて米の輸出國たらしめ、天分の應用方を利用して從來行はれてゐた耕作法に改善を加へたり、又は老齢の大耕地に入り特殊の施肥を行つて面目を一新せしめたりなど、更らに工業方面にも我が同胞に依つて影響されたものも尠なくないまで長所を發揮した、殊にノロエスラ鐵道は第一回移民をはじめ多くの邦人の犧牲に依つて開通したもので、いまその沿線に隆々たる發展振りを示して、昔ては日本文化の手本と考へて何から何まで學んでゐた獨逸人から、植民地經營の模範として資料を求められて來るまでに漕ぎつけた。

而してまた數と力の上から見ても、現在伯國に居住してゐる同胞は七萬二千と註せらるゝに至つたし、一年間の生產高も無慮十萬コントスを突破することゝなり、經濟界にも段々その力を認められるやうになつて來たのを、今から二十年の同胞が絕へず努力したからの結果で、之を顧へば過去二十年の同胞の生活の結果で、一日として感謝無しでは居られない。（一記者）

祝同胞發展廿周年
石村洋服洗濯店
聖市ラヴァペス街二三六
電話——二一三二三四

祝同胞發展廿周年
齒科醫　金城山戸
聖市ヴエルゲイロ街一二三
電話——七一三三八四

祝同胞發展廿周年
日本貿易商會
本店　聖市キンチーノ・ボカユーバ街八〇
支店　リオ市アルファンデガ街貳貳參（階上）

GARAGE CONGRESSO
Praça Dr. João Mendes == Telephone, 2-0081 == S. Paulo
祝同胞發展廿周年
ガラージ
コングレッソ
聖市
ブラッサ、ジョアン、メンデス
電話　二一〇〇八一

祝同胞發展廿周年
日伯齒科醫院
村上眞一郎
聖市ボニータ街九番二階
電話二一二〇三九

Otto Studio
Rua Santa Thereza, 2
5° andar sala, 502
Telephone 2-4361
S. Paulo
祝同胞發展二十周年
オツト寫眞館
池邊乙人
聖市サンタ・テレーザ街二——五階五〇二號室
電話——二一四三六一

祝同胞發展廿周年
建築請負業
丸野政義
聖市
ジヤカレイ街二四
電話二一〇三四六

祝同胞發展廿周年
山田隆次
聖市コンデ・デ・サルゼーダス街六九

現在に於ける 在伯邦人數

昭和三年六月現在

（六月十三日着ハワイ丸移住者まで）

珈琲の國ブラジルへ第一回渡伯者七百九十三名が上陸してこのかた風雨春秋廿有年、曲節を經て現在の邦人はノロエステ沿線の二萬を筆頭に左の如き數字を示してゐる（聖市總領事館調査）

昭和三年六月現在

人口　七二、二八八
戸數　一四、五〇七

併し右の數字に含まれてゐないもの、即ち伯國生れの子女で帝國在外公館宛出生屆をはぶいて唯伯國人として在住地の伯國官廳に屆けて出るものその他を全人口數の二割乃至一割五分と推定するときその總人口は八萬五千二百九十名となり第一回移住者數の實に百倍强の數字を示すことになる。

更らに駐伯帝國公館の所轄地區に分けて、それを鐵道沿線の在住狀態から表示すると次のやうな數字を示す（昭和二年十月現在）

◎聖市總領事館管轄

◇聖市及聖市近郊在住者

	戸數	家族
本業 男	九〇八	一、二一六
女	九二	一、四六九
合計		三、六八五
戸數		八二一

◇ソロカバナ沿線

	戸數	家族
本業 男	一、五一七	二、二一七
女	〇	二、七九一
合計		六、五二五
戸數		一、四二一

◇中央線及その支線

	戸數	家族
本業 男	二、四六九	二、六一三
女	一三	三、二七三
合計		八、三六八
戸數		一、七〇三

◇南三州ミナス州及その他

	戸數	家族
本業 男	七六一	九六〇
女	〇	一、〇〇四
合計		二、七二五
戸數		六五二

▲右各地方在住者合計

	戸數	家族
本業 男	五、六五五	七、〇〇六
女	一〇五	八、五三七
合計		二一、三〇三

◇バウル領事館管轄

◇バウル市及その附近

	戸數	家族
本業 男	一一九	一一〇
女	三	一六一
合計		三九三
戸數		一二二

◇ノロエステ沿線

	戸數	家族
本業 男	三、二五六	五、九三五
女	四	七、〇三四
合計		一六、二二九
戸數		三、二六〇

◇麻州

	戸數	家族
本業 男	三〇九	三九二
女	〇	三七九
合計		一、〇八〇
戸數		三〇九

◇バウリスタ沿線

	戸數	家族
本業 男	二九一	四三一
女	一	五五七
合計		一、二七四
戸數		二二〇

◇ソロカバナ沿線

	戸數	家族
本業 男	一五〇	二三八
女	〇	四七三
合計		八六一
戸數		一五〇

▲右各地方在住者合計

	戸數	家族
本業 男	四、〇五三	七、一〇六
女	八	八、六〇四
合計		一九、七七一
戸數		四、〇六一

◎リベロン分館管轄

◇リベロン市及其附近

	戸數	家族
本業 男	四三	四九
女	四	七〇
合計		一六六
戸數		三二

◇モヂアナ沿線及サンパウロミナス沿線

	戸數	家族
本業 男	一、九四九	四、〇四一
女	〇	五、八一二
合計		一一、七九二
戸數		一、九三八

◇アララクアラ沿線

	戸數	家族
本業 男	三九四	五二九
女	〇	七一〇
合計		一、六三三
戸數		三九三

◇三角ミナス州及ゴヤス州

	戸數	家族
本業 男	四八二	四九九
女	〇	五六一
合計		一、五四二
戸數		四八二

◇バウリスタ沿線及サンパウロゴヤス沿線

	戸數	家族
本業 男	四五〇	八二四
女	〇	九九九
合計		二、二七三
戸數		四四七

▲右各地方在住者合計

	戸數	家族
本業 男	三、三一八	五、九四二
女	九	八、一五二
合計		一七、四二一
戸數		三、二九二

◎サントス出張所管轄

◇サントス市及其附近

	戸數	家族
本業 男	四九三	五〇〇
女	八	七五〇
合計		一、七五一
戸數		四五三

◇ジュキア沿線及イグァペ

	戸數	家族
本業 男	一、〇一一	一、六三五
女	八	一、八六七
合計		四、五二一
戸數		九二三

▲右各地方在住者合計

	戸數	家族
本業 男	一、五〇四	二、一三五
女	一六	二、六一七
合計		八、二七二
戸數		一、三七六

◎リオ領事館管轄

	戸數	家族
本業 男	一五八	五五
女	一七	八四
合計		三一四
戸數		五四

即ち昭和二年十月現在に於ける在伯邦人の人口及戸數の合計は聖市總領事館管内

	戸數
人口 二一、三〇三	四、五九七
バウル領事館管内 一九、七七一	四、〇六一
リベロン分館管内 一七、四二一	三、二九二
サントス出張所管内 六、二七二	一、三七六
リオ領事館管内 三一四	五四
合計 六五、〇八一	二三、三八〇

となり、これに昭和二年十月以後本年六月迄の數字に左表を加へて上記の人口總數七二、二八九の戸數一四、五〇七を得、即ち昭和二年十月より同三年六月までの入國數は正に

人口　七、二〇七
戸數　一、一二七

である。

祝同胞發展廿周年
サンパウロ日本人會

祝同胞發展廿周年
田名網美髮店
聖市コンデ街二三

祝同胞發展廿周年
雜貨商
山里商店
サントス市

祝同胞發展廿周年
建築請負業
鮫島直哉
サンパウロ市

祝同胞發展廿周年
日本御料理
青柳亭
サンパウロ市
コンデ街三三

Casa Yokohamana
KIUYA MATSUHASHI
Largo do Arouche, 61 = Telephone, 4-0455 = S. Paulo
祝同胞發展廿周年
家具商
カーザ
ヨコハマナ
松橋久彌
聖市ラルゴ、ド、アロウシエ六一
電話　四一〇四五五

TINTURARIA ORIENTAL
YOKOMIZO
Rua Conde de Sarzedas, 50 = Telephone, 2-6289 = S. Paulo
祝同胞發展廿周年
洋服洗濯
染物一切
横溝染工場
聖市コンデ街五拾番
電話　二一六二八九

祝同胞發展廿周年
ユニオン小學校、バナ、園主
與那嶺仁五郎
サントス市

祝同胞發展廿周年
上原商店
上原直勝
サントス市

祝同胞發展廿周年
サントス青年會
マレシャール・ペーゾ・ジュニオール街八
郵函二八二

祝同胞發展廿周年
サントス日本人會

祝同胞發展廿周年
朝日製麺所
榮門正德
サントス市プラスクーバ街三二八

祝同胞發展廿周年
原田高弐
榮門松

CONFEITARIA
Rua Senador Feijó, 255
Santos

祝同胞發展廿周年
理髮業　宮城長次
岸本德松
サントス市
マルチン・アフォンソ街一一〇

祝同胞發展廿周年
漁業　清水安次郎
サントス市ポンタ・ダ・プライア

祝同胞發展廿周年
醫學士　渡邊勘
サントス市

祝同胞發展廿周年
齒科醫　田中善一
サントス市
アウグスト・セベーロ街七・二階

祝同胞發展廿周年
サントス市アマドル・ブエノ街一三八
洗濯業
サントス市プラッサ・ジョゼ・ボニフアシオ二二
レストウランテ
サントス市アントニオ・プラード街七四
レストウランテ
經營者　上原直義

祝同胞發展廿周年
日の出製麺所
仲村喜平
サントス市
ペードロ・アメリコ街四〇

祝同胞發展廿周年
青物商　西山本益
サントス市
ピスコンデ・エンバレ街一九六

祝同胞發展廿周年
ホテル平和
小濱松助
サントス市
プラッサ、ジョゼー、
ボニフアシオ五一

祝同胞發展廿周年
大阪商船株式會社
日本郵船株式會社
國際汽船株式會社
御用達
各艦船食糧品賣込業
K　合資商會
小濱友市
前田吉太郎
南米サントス市
ジエチルカマラ街一三三
電話セントラール一四七

伯國移民の今昔

モンテビデオ丸船中にて　大野基尚

明治の中葉、矢野龍溪は浮城物語といふを書いて、德川時代から萎縮してしまつてゐた海外進出熱の振興を策し、當時の政治家や青年に多大の衝動を與えた浮城艦には沈思深謀の一豪傑を搭乘せしめ、先づ南洋を攻略し續いてアフリカの中核を圖らしむるにあつた。

世相遷り變はり日清日露の大戰を經て國家の膨張力は未だ曾て前人の夢想だも及ばず無い勢を示し、此の張りちぎれ相な大勢を北に南に誘導宜しきを得無いならば決して國情は安定を保つのでは無かつた。南進か、北進か當時の輿論は二つに頒れて互に宏遠の理想を逸べ國内騒然たるものがあつた。

憂國の士は議論よりは實行を先きにし、細川侯の如きは時の農相清浦圭吾等と謀つて龍溪の理想を尚ほ一歩延長し遠く南米の寶藏開拓に着手するに至り、隈部三郎は使命を帶びて出發した時に明治卅九年初夏の候であつた。

之より先き、隈部には別働隊で齋藤修一郎を社長とする皇國殖民合資會社は水野龍を南米諸國に派遣して實情調査に莫大の犧牲を拂つてゐたのである、茲で私は皇國社組織の由來を叙して置く必要がある。

皇國殖民會社は明治卅七年一月一日の創立に係り、井上馨の後援で出世して農商務次官まで勤めた齋藤修一郎を拉し來つて社長に据えた。

齋藤修一郎は、大官時代、金時計收賄問題に連座し官職を辭し米穀取引所の所長となつてゐたのであるが、水野龍は學生時代に親友であつた田結劉三郎を介し齋藤と接近の機會を作り遂に舁ぎ上げて皇國の社長とした、田結劉三郎は齋藤の秘書官であつたから話を進めるには都合がよかつたのである。

皇國殖民會社は明治中葉以來漸く勃興して來た海外發展の氣運に乘じ、遠大の理想の下に、進路を南米に覓めんとしたのであるが、活動舞臺を南米に擇ぶに至つた理由が尚ほ他に一つあるそれは、當時昌んに行はれてゐた諸移民會社の布哇移民に關する醜惡な非人道的弊害の淨清にあつたのである。

當時移民會社といへば佐久間の經營する東洋の外に、日向輝武管原傳　山口熊野　森岡眞等で料理さるゝ所謂聯合移民會社といふのがあつた、此の聯合社は專ら移民を布哇に送る事を業務とした。

布哇行移民は船賃の外に見せ金五十弗を要し、又募集手數料として十五圓を收めねばならぬから、貧乏な出稼移民は事實負擔に堪えるものが少ない、若し强いて徵收すれば應募者が減り會社は立つて行かぬ事となる、それで聯合社は一策を案出し京濱銀行と諒解を得、共同利益の分配を約束し、見せ金五十ドルの鷹ドラフトを移民に交附せしめる事とした、移民は拂ひ込みもせぬのに五十弗の手形を貰ふのだから表面は甚だ恩惠に浴したことゝなつて居る、然るに布哇に上陸して、見せ金たるドラフト使用後は直に移民會社の代理人が之を取り上げてしまふのである。併し兎も角移民は借用證を入れて五十弗借りた事となつてゐるから、勞働賃銀の一部を毎月貯金して、なしくづしに之を皆濟するまでは束縛を受けるのである。つまり移民は借らぬ金五十弗を支拂はされるのだから叶はぬ、又此等移民を受取つた耕主は一人につき卅弗の旅費拂戻しをする義務があつたから移民會社はつまり移民一人につき八十弗の丸儲けをしたのである。

皇國社は此等不正手數による移民取扱法の廓淸を決心し、齋藤修一郎を社長に押立て資本を十五萬圓とし東京有馬組建築請負業森尙右衛門が株を過半數引受けて成立したので、取締役に平山靖彦、吉田弘藏、石澤龍尾の四人が据はり、水野龍が專務になつて、聯合會には加入せず單獨に移民を取扱ふ事とし、移民の見せ金五十弗は會社が直接正金銀行に拂込んで正金ドラフトを各自に交附したら、正金のドラフトは布哇では受けがよく、移民は容易に上陸して農園に就働することが出來た、而して移民の上陸の際し、聯合社の如く、移民懷中の銀行ドラフトを一々取り上げることをしなかつたから移民はいつでも正金支店から五十弗を引出し得るのであつた聯合社は皇國が新らしく割込んで競爭の位地に立つたのを嫌ひ之れが排斥の手段を案出した、乃ち皇國輸送に係る移民を唆かし、例の五十弗ドラフトを使用して正金支店から現金を引出さしめ、此の金を以て北米本土に轉航の援助をした、移民に執つては、こんな旨い事は無いので皇國の取扱移民は續々北米指して轉航したから會社の損害は莫大で閉口してゐる所に布哇駐劄の總領事齋藤幹は、皇國移民の不成績を本省に報告し斷然移民輸送の停止を慫慂したので、外務省は營業停止を皇國に命じた、此の齋藤總領事は實情に通じてゐながら聯合社を援助し、皇國排斥の措置を執つたので、彼の牛込に於ける豪壯な檜御殿出費の出所につき疑ひの目で睨まれたとの事であつた。

皇國社の布哇移民は斯の如く同業者の陋劣な排擊に辟易して失敗に終はつた、そこで水野龍は新天地開拓の壯圖を懷き、卅八年十二月、東洋汽船の新航路が裏南米沿岸に開かれた時、其の

(九頁へつゞく)

祝同胞發展廿周年
三吉裁縫所
サントス市
セナドル・フエジョー街二一〇
電話……九一六

祝同胞發展廿周年
パン製造並に菓子店
野中兄弟商店
サントス市
カルバーリヨ・メンドンサ街四二八

祝同胞發展廿周年
家具商
金山喜三郎
サントス市

祝同胞發展廿周年
成功館
古謝將義
サントス市

祝同胞發展廿周年
害虫驅除液
KATTORI-X製造所
守家勝人
サントス市
アベニーダ、アンナ、コスタ一六八

祝同胞發展二十周年
大阪商船株式會社
サントス駐在員　酒寄守

（八頁よりつゞく）

初航海に便乘し先づペルーを經へアルゼンチンを見、ブラジル研究の途に就いた。

此の初航海の三等船客は主にペルー行き出稼移民で二三十人乘つてゐたが、其の内に好んで議論を闘はせ、和歌俳諧に巧みな一青年がゐた、水野はブラジルに計畫を有つ身であるから、片腕どもなつて働く人材を要したそれで早くから此の青年に嘱望する所があり機を見てブラジルに隨行の意思無きかを問ふて見ると此の青年は案外容易に隨行を承諾した。水野に見込まれた青年こそ後に献身的に移民事業に竭し移植民發達史に光彩陸離たる鈴木貞次郎其の人である。

水野は鈴木を從へ、馬上アンデス山嶺の積雪を踏み越え、アルゼンチナのバンバスを横切り、ブエノスを經てブラジルに乘り込み公使館書記官三浦荒次郎の援助で詳細に調査を遂げ成案を得たから、移民契約の希望をサンパウロ州政府に通ずると、政府は日本人勞働者の能率に就き疑問を懷いて快諾を與えなかつた、それで水野は勞働者の見本として鈴木貞次郎を提供し試用を懇望し一年後を期して一先づブラジルを引揚げて行つた。

明治四十年水野は再びブラジルに渡つた見本として殘して置いた鈴木は、耕地に送られて初めはカマラーダとして酷使されたが克く耐えて賞讃を博し、勞働者としてこき使ふのは惜しいといふので帳簿係りにまで出世してゐた。

水野を迎えたサンパウロ政府は鈴木を通じて見た日本勞働者といふものに悉く感激の意を表し、易々と有利な條件を許與して移民契約に調印したのであつた、而して鈴木は此の頃は已にサンパウロ市に呼び出され、移民局の役人に拔擢されて、移民宿泊所の事務を執掌する事となつてゐた。

明治四十一年三月水野は平野運平、仁平高　嶺昌　加藤順之助　大野基尚の五人を拔擢し、シベリア經由で急遽ブラジルに派遣し、第一回移民を受取る準備に當らしめ、超えし五月笠戸丸を仕立て、南米初航海といふので大事を執り、船長には英人を傭ふた、南米航路には日本人の船長では其の技術に尚ほ不安であるとされてゐたのは興味あることである。

龍溪の所謂浮城に擬す可き笠戸丸は七百數十の初回移民を載せ沈思深謀の指揮官に上塚周平が座乘し、發するに臨み意氣已に天を呑むの概を示してゐた、これから先きは他に書く人があるから、予の受持を此の位ひで切りあげることにする。

駐伯帝國公館任歴代外交官氏名
（各官代理及び分館出張所主任を除く）

△在リオ大使館
明治卅年八月設置、大正十二年大使館に昇格
辨理公使　珍田捨己
同　大越成德
同　杉村濬
第一回皇國移民來航す
特命全權公使　内田定槌
同　畑良太郎
同　堀口九萬一
大正十二年大使館に昇格す
特命全權大使　田付七太
同（現任）　有吉明

△在サンパウロ總領事館
大正四年七月設置
總領事　松村貞雄
同　齋藤和
同（賜暇歸朝中）赤松祐之

△在リオ領事館
明治卅年八月設置
公使兼任　珍田捨己
同　大越成德
同　杉村濬
第一回移民來伯す
領事　藤田敏郎
總領事　松村貞雄
大正四年八月より大正八年四月まで閉鎖
領事　岩手嘉雄
同　野田良治
同（現任）　市毛孝三

△バウル領事館
大正十年一月設置
副領事　多羅間鐵輔
領事　多羅間鐵輔

祝同胞發展廿周年
穀物仲買運搬業
食料品雜貨　蔭山商店
蔭山博史
バウリスタ線ベラクルス驛
郵函……六二

Casa Kagueyama
Armazem de Seccos e Molhados
Compra-se Cereaes. Transporte
Est. Veracuruz L. Paulista

祝同胞發展廿周年
魚安
北西線リンス市リオブランコ街四一

Casa Uoyasu
Lins, Noroeste

祝同胞發展廿周年
國見文吉
農田植民地——北西線リンス驛
徳島縣人

祝同胞發展廿周年
東京式製菓　横濱堂
店主　岩城富士作
北西線線ゾロミツソン町
セルジッペ街

祝同胞發展廿周年
和洋料理　八千代
稲垣倉吉
ペンナ驛カフエランヂア町

祝同胞發展廿周年
本田授
大野七郎
北西線グワ弁サラ驛

祝同胞發展廿周年
富士山印醤油　藤澤豊次郎
北西線ペンナ驛カフエランヂア町
町内に醸造所新設生産多量

祝同胞發展廿周年
即席御料理
和洋珍味　伊勢屋
瀬川すがえ
ペンナ驛カフエランヂア町

祝同胞發展廿周年
㊞印プランタ機製作所
丸石兄弟工場
北西線ペンナ驛
カフエーランヂア町
入口橋の側

CASA ORIENTAL
T. SUYAMA
ARMAZEM DE SECCOS E MOLHADOS
Est. Penna — Cafelandia

祝同胞發展
廿周年記念
内外品雜貨商
須山藤太郎
穀物仲買
北西線ペンナ驛
カフエーランヂア町
郵函一七四

祝同胞發展廿周年
副島商店
店主　副島惠祐
ペンナ驛
カフエーランヂア町
平野植民地支店　堀本益雄
ビラシモンエス支店　生野隆

邦人發展の恩人

上塚周平氏訪問記

花生 萍

モジアナ線チピリッサ耕地に於ける南樹は日本人として最初の珈琲園勞働に從ひ、我が移民の見本的な試錬の犧牲に身を挺した、辛酸二星霜『一書生の我れ此の勞働に堪ゆ、本職の農民を送れ、大丈夫だ』との報告を手にした東京の水野氏は、我事成れりと勇躍して同志を糾合し、皇國殖民會社は創立された、サンパウロ州政府との補助契約も成立し、愈々理想が具體化されて來たその時、氏等はハタと當惑した一事があつた、それは日本と伯國の距離に於て、世界中一番遠い夢想もしない蠻地ブラジル、それこそ猛獸毒蛇はおろか、瘴癘と食人族の瀰こる蠻地のみ想像されたるブラジルに幾百の同胞を宰領して開拓の難事に當り得る、堅忍不拔の統制的人材を得る事であつた、日南蘇峰、蘆花の如き文豪や政傑安達謙藏氏等の向ふを張つて政友會の名幹事長たりし才人江藤哲藏氏も當時此の計畫に與つてゐたので、郷黨の後進、帝大法科出身のほや〳〵たりし上塚周平氏を此の衝に當らしむべく水野氏に紹介したので剛放にして恬淡な新法學士は卒業の喜びを郷里に待つ父母近親にも傳へずその儘ブラジル行を斷行したと云ふのである。

時は明治四十一年四月、櫻花將に爛漫、戰後の餘榮に馴れた國民は花に浮かれ、醉ひしれて、徒らに隋眠を貪るのみで將に來らんとする我が民族の一大危機に對する百年の計畫たる移民政策の實行、先驅の第一回ブラジル移民を乘せて鳳凰萬里の途に就く笠戸丸の神戸出帆に、感動し得る者幾何あり得たかは疑はしい、さあれ、首途の港からして船賃問題で一騒ぎもめた移民對會社側の六十日間の航海は割合に雄飛氣分で、元氣にサントスに上陸、初めて七百餘の同胞が足跡を印したのは正に明治四十一年六月十八日、丁度廿年前の今月であつたのだ、かくて我等のメイフラワー號たる笠戸丸は榮譽の任を了へた、翌十九日にはアルトダセーラを登つてサンパウロの移民收容所に入り、先着の語學校出の五人男――故平野運平、仁平高、嶺昌の三名と現存の加藤順之助、大野基尚――宰領に身を委したが、實際に當つては二年の先輩である鈴木南樹が萬事の世話をやつてのけ、ニガイ珈琲、氣味の惡い腸詰めの辨當でそれ〴〵耕地に送り出され、七百餘名を見送つた上塚、水野の兩氏は一と安心したものゝ其の後一向に吉報らしいものの無かつたには困まり拔いたと云ふことである、即ち彼等移民の日々訴へ來る電報は、一日に五百レースも上らない、監督がやかましくてやり切れぬ風呂がない、ビッショがゐて耐まらないと云つたやうな不平で其の次には彼此處でストライキやサボタージュ、加藤順之助の受持つたデューモン耕地の如きは三浦(荒次郎)書記官と同行して二回までも鎮壓に努めたが人權擁護なんかに人一倍經驗を有つ目黑靜等が頭目となり『自分達は食つて行く丈けなら日本にゐてもやつて行ける、親を泣かせてまで伯國三界まで來はせぬ、奴隷同樣に働いて未だ日收八百レース(邦貨四十錢)ではどうしても働けぬ』と怒號して氏の涙の說諭も仇に、四ヶ月目にはさん〳〵な事で退耕したと云ふのである。

◇◇談片◇◇

デューモン耕地に說諭に行つたら五十餘家族の者を集めた真ん中に、梯子を立てゝ立ち上つたのは黑の法衣を纏ふた日蓮宗の

(十一頁へ續く)

祝同胞發展廿周年
パウロ・リンス青年會
ノロエステ線リンス驛――郵函二〇三

祝同胞發展廿周年
反物內外雜貨
青木商店
北西線リンス市公園の前角
郵函一三七

CASA AOKI
Caixa Postal, 138 = Est. Lins = L. Noroeste = E. de S. Paulo

祝同胞發展廿周年
長田旅館
北西線リンス市ルイスガマ街三二

Hotel Nagata
Lins, Noroeste

祝同胞發展廿周年
宮平市助
北西線リンス市ルイスガマ街五一

Pensão Progresso
DE
I. MIYAHIRA
Lins, Noroeste

祝同胞發展廿周年
與那城太郎
北西線プロミッソン驛

祝同胞發展二十周年
CASA VERMELHA
S. SHIBUYA & CIA.
Est. Lins = Linha Noroeste
藏さらへ特價
大賣出し
……六月二十四日ヨリ七月二十二日マデ……
特價品は正札の三割乃至二割安
特に賣出し期間中は御奉仕の意味にて
藏さらへ在庫品全部正札の一割引
にて廉賣致します尙日本品は直輸入を以て問屋の手を省く事に依つて最低價を以つて提供致しますからどうか御試買を御願申上げます
整理投出
但しサツクものには相當の粗景を添へカマ、コルシヨン、エンシヤーダ、釘ベビーダ、マカロン及三釘以下の反物は正札の五分引に願ひます
ノロエステ線リンス市
カーザ ヴェルメーリヤ
澁谷商會
郵函……二三九

Marcenaria Oriental
T. BEPPU
Est. Lins Linha Noroeste
祝同胞發展廿周年
家具製造
東洋工場(オリエンタル)
別府友太郎
北西線リンス市公園横

（十頁より續く）

茨木友次郎氏、念珠つまぐつて資本家（耕主）の横暴を難じて聽衆を熱狂させたが、餘りに熱し過ぎて坊さん先生梯子から眞逆様に墜落した喜悲劇もあつた。

△△バウアルト耕地▽▽

やつと一方が濟めば又一方からの飛電！第二回目に來た鈴木南樹の弟季造氏を通譯として遣つたバウアルト耕地から急を告げて來た事がある、當時日本移民不成績とあり皇國殖民會社は解散し、東洋や竹村の移民會社で取扱つたのが次々に來るが、とゞの尻拭ひは上塚氏に持つて來る、所が當時サンパウロで葡語を話し得る者は藤崎商會の後藤武雄氏のみで何時もこの人を引張り出して收容所長等に絶つたものだが遂ひにはどうしても旅費の出やうがないので鍋屋と言ふ宿屋の主人に强請して旅費丈け出させ、やつとピラポンフインに乘りつけたが、驛で待つてゐた馬車が徐くてのろくて氣が氣でない、一計を案じた上塚氏は廻らぬ葡語で手やう目樣、ピストルの射的を初めた、黑のカルセイロ君謀られるとも知らず、面白半分に黑君もすつかり彈を射つて終つた、之を見た氏は、さあしめたとばかりに足で小衝きつゝやつと耕地に駈けつけたと。

併し水野氏の事業は事志しと違ひ、竹村氏經營となつてからも水野氏と交誼の厚い上塚氏は自ら代理人の椅子こそ退きしも、子と思ふ幾多の伴れ子即ち移植民の身の上を思ひ、先途を見屆けすに故國に逃げ歸るは情に於て忍びずとし、玩具、紙細工等の手の先き仕事を一味の者と營みつゝ、地方よりの苦情や悲報を聞いては何にかと世話したのである、併し斯くては果てぬと一旦歸國して大正七年再渡伯後は現在イタコロミー植民地及第二上塚植民地の開祖として其のバイオニア的人格を思慕して集まれる者數千に及ぶの盛況を呈したのである。

ブロミツソンのイタコロミー十周年記念祭は本年八月三十一日に五十餘コントスの經費で大々的に擧行せられんとするし、又彼の八五低資の如き自分に直接關係なき事項でも邦人移植民に關する仕業は老ひの身を忘れて奔走する、即ち難關に所して、百萬人たりとも我行かんの元氣また氏の熱誠燃ゆる光である、好物のピンガーに陶然として談論風發、能く植民政策を論じ、後進指導を忘れぬ親心を多量に有つ氏に對しては、眞にブラジル同胞發展の恩人として感謝するに足るものがある。

廿年の人に　會ふの記

ブレシデンテ・アルヴエス驛の上田氏は記者に語る、私は福島縣相馬郡の出で三十一歳の時現在モンソン植民地の元老たる山田末吉氏の構成家族として笠戸丸で來伯、ヅモント耕地に入つて、サン〳〵苦勞して四ケ月目にサンパウロに出て來ましたが言葉も判らず、或時は家庭奉公やラッパの製陶所に働いてコンデのボロン生活も數年續けました、藤崎商會に二ケ年許りも勤めて田舍行きを決行し、旅費を仲間から借りてノロエステ線のブレシデンテ・アルヴエスに來り、外人の商店に働いて華客を作り、四年の後に獨立して現在の店を持つことになりました、顧みれば廿年の歳月辛苦をつぶさに嘗めて、やつと一本立ちの商業家となり、當市では相當にやつてゐる積りです、家族も夫婦に子供六人で、皆な健康と希望とに滿足して家業に勵んでゐます、近々ガルサ驛前の新居に移りて商店を經營する積です。

次に、ピリグキ驛アグアリンパの川床氏兄弟に會つて見ると川床榮司及榮吉の兩氏は矢張り廿年前に笠戸丸で渡伯した人達で、榮司氏は三十九歳にして、ブラジルに來り平野運平氏の通譯たりしグアタパラに入耕したのであるが、氏は記者に語るに、私共は鹿兒島縣人で初め耕地に二年程働きましたが餘り良い事もないので、サントスに出てプエノスアイレスに移り六ケ年を其處で過しまして大正六年にパラガイよりマトグロッソに遡行してノロエステ鐵道から現在のピリグキ植民地に土地を求めて入り、兄弟各々業を得て農業に從事してゐますと云ふのである、榮司氏は五十餘城の土地を所有し、子息は馬車を御して運搬を業としてゐるし又榮吉氏は十七城の土地しか持たぬが醬油釀造を爲し殊に果樹中多くの蜜柑を栽培してゐる。

此の外第一回の人々には上塚翁の女房役、第一上塚植民地イタコロミー開拓の功勞者たる間崎三三一（高知）村崎豐重（熊本）香山六郎（聖報社長）、鎌田信一郎、島村七藏、西村等の諸氏が在る、チピリッサ驛の岩本庄三郎氏も亦然りで其の他二三名は此の邊に見受けるも、第一回の人達は概して定石的基礎者で今日邦人發展の土臺となつてゐるところに大なる價値を有つてゐる。

祝同胞發展廿周年
平田製菓所
ブロミツソン町、郵函二三　平田伊平

祝同胞發展廿周年
品質本位、薄利多賣主義
美味にして割のきくお醬油は
クロシマ印　醬油
クロシマ印醬油釀造元　黑島伊平治
北西線ブロミツソン町セルジッペ街

祝同胞發展廿周年
福井縣人
建本健介
北西線ブロミツソン驛
コルゴ・アズール植民地

祝同胞發展廿周年
關屋商店
北西線ブロミツソン町　青木關太郎

祝同胞發展廿周年
宮本浩
北西線ブロミツソン驛

祝同胞發展廿周年
プロミツソン青年聯盟
伯國聖州ノロエステ線
ブロミツソン驛

祝同胞發展廿周年
齒科醫　向井丈松
ノロエステ線ブロミツソン町

祝同胞發展廿周年
Hotel Oriental
Promissão
オリエンタル・ホテル
北西線ブロミツソン驛　青木多喜藏

祝同胞發展廿周年
松藤商店
北西線ブロミツソン町　松藤初市

CASA OSHIRO
Armazem de Seccos e Molhados
Caixa Postal, 96 = Promissão = L. Noroeste = E. de S. Paulo
祝同胞發展
廿周年
確實大勉强の
內外品雜穀
大城商店
店主　大城梅清
穀物仲買
北西線ブロミツソン町
郵函九六

CASA IYDA
Armazem de Seccos e Molhados — Deposito de Gazolina
Compra e Vende Generos de Paiz
Caixa Postal, 18　Est. Promissão　Linha Noroeste　E. de S. Paulo
祝同胞發展
廿周年
內外品雜貨商
飯田商店
ボンバ、デ、ガゾリーナ新設
北西線ブロミツソン町
郵函一八

經て來た道

アラサツーバ驛アアリンパ區
宮崎縣人　目黒靜

明治照代兩戰役に御奉公した私は滿鮮に於ける治安の警職を擲つて、恰も水野龍氏の企てた皇國移民會社の渡伯第一回移民として、明治四十一年四月七百餘名の同志と神戸から笠戸丸に乘り込んで地球の裡、世界の涯のブラジルを志して渡伯したのが私の三十一歳の血氣盛りの時でした、同縣人として今も猶ほモジアナ線フロレスタ耕地（パタタエス驛）で耕地監督をしてゐる遠藤豊之助などがあります、子供は無いので今十五になる養子がゐる許りです、何しろ初めての渡伯移民で初めつから種々な話の種子はありますが、もう私も老人として社會的にも隠居さしてもらつてますから、成るべくは名を出し度くありませんが、貴方達が邦人發展の移植民史様の物でも編まれるとすれば相當な材料、廿年前の秘史的なものでも御話してもよいのです兎に角笠戸丸に乘る前から會社が手數料五圓を迫徴した事で騒いだ第一回移民です、移民收容所では差別待遇で大憤慨して、譯も分らぬ收容所の門口まで一團となつて、自由行動をとると騒いだものでした、人權蹂躙なんてよく口にしたものですが、鈴木貞次郎氏が一切の世話をしてゐてもいゝ加減にあしらはれました、愈々五名の通譯に分率されて私共は加藤順之助の許にリベロンプレートのヅモント耕地に入耕したのでした、五十家族だつたと思ひます、もう同航者で同耕地に入つた者の事も確と覺えませんが、故高桑治平（野の花）、鞍谷半三郎、橋口（橋口未亡人は現聖報社長香山氏夫人、遺子は敏信氏）等から曩に言つた遠藤豊之助、臼井介仁、茨木友次郎等の諸君、未だある高野富吉上田留治、木村清八等の諸氏で、間崎三三一氏等はほんの子供だつたと思ふ、茨木友次郎さんの家庭など弟の故信太郎さんもほんの子供で、私が種々世話やいたものです、それからヅモント耕地の生活が始りました英人經營で第一等の耕地と言ふ話でしたが、碎米を食つて働いても〳〵も一日の收人が八百レース位にしかなりませんが、いくら物價は安くても金儲けどころか奴隷の如く使はれるので一同はより〳〵話合ひまして、サボツたり休業したりして三浦荒次郎氏（在リオ公使官書記官）に出張してもらひ、上塚氏等數回來て涙の說諭が繰返されましたが、私共も言ひました

（左）上塚周平氏と目黒靜氏家族

『食ふて行く位ならブラジル下り』まで遣つて來はせぬ、少しでも儲け度い爲めに來たのですが、此の有樣では』と倒頭私等が一番憎れ役で四ケ月位して退耕しました、その當時の珍談としてパン種をサンパウロの上塚氏に注文したが分らずに終り、珈琲を煎つたまゝの丸ながらを熱湯に入れて暫く飲んだものです、香ひどかつたのは眞朱に汚れるのに風呂もないので、共同水場に行つて女達が上着をぬいで水使ふのを外人が寄り集つて騒いだものでした、通譯の加藤さんは若〳〵はあり短氣で、向我々の味方もしてくれず、何んの役にも立たないと思ひましたそれで退耕して殆ど皆サンパウロ市に出で、又他の耕地に行つたり、青年の一隊はアアシナ鐵道の工夫となつて一時の窮境を脱し幾人かの犠牲者も出ました

こんな風で私はピラチニンガ驛ピアード耕地の通譯になつて第二第三の移民の世話もしましたが、此處も面白くなく、遊んでゐる中上塚氏から交渉があつてアララクアラ線のサンタ・エルネスチーナ耕地に通譯兼監督として雇はれました、耕主は有名なカーロス・マガリヤンエス氏、支配人が前收容所長のジョゼーフラカ氏で、日本人をよく理解し可愛がつて、廢れかゝつてゐた廣い耕地を立派な模範耕地とまで仕上げ、殆ど六十家族位の日本人を使つてゐました、同耕主は其後も日本人を使つてカンプ井の大耕地を作りました、こんな具合で永い間此の耕地に勤續して少し宛餘裕のついたコロノを率いて當ピリグ井植民會社の土地を買ひ入植しましたのが大正八年でした、今は三十アルケーレスの土地に三萬の珈琲を植えて、三四家族のコロノを置き又桑を植えて養蠶もやつてゐます、養豚も面白いものです、が當地へ入植當時の困難は實に意想外の人生史で、血に飢えたオンサと取り組んだ位の勇氣はありました　まあ廿年も經つた今、冊になつた許りの渡伯當時の事を追想すると今昔の感に堪えません。（文責記者にあり）

祝同胞發展廿周年
建築請負業
今井圓治
北西線プロミッソン町

祝同胞發展廿周年
花田製菓所
花田郡藏
北西線プロミッソン町

CASA UYEDA
T. UYEDA
Armazem de Seccos e Molhados
Est. Presidente Alves, Linha Noroeste

祝同胞發展廿周年
内外食料品商
上田商店
上田留治
北西線　プレシデンテ、アルヴエス

Faz. Primaveira
—DE—
S. HAYASHIDA
Est. Lussanvira L. Noroeste

祝同胞發展廿周年
林田鎭雄
北西線ルサンビーラ驛

祝同胞發展廿周年
ファルマシア・ジヤポネーザ
北西線グワキサラ驛　紫垣清熊

祝同胞發展廿周年
カーザ・デイアス
北西線グワキサラ驛　高橋善七

祝同胞發展廿周年
香川縣人　田甫農場
田甫松三郎
ノロエステ線グワキサラ驛
ペレーザ植民地

Off. de S. Saito
Est. Guayçara Linha Noroeste

祝同胞發展廿周年
齋藤鐵工所
齋藤庄助
ノロエステ線グワキサラ驛

祝同胞發展廿周年
内外品雜貨商
村上商店
村上茂人
北西線グワランタン驛＝郵函六五
ブラジル語講習錄取次所

在伯邦人一年間の生産收入總額

左記數字は昨年海與伯國支店に依り發表されたものに其の後の增加を概算として加へたものである。

(面積單位はアルケレス、　金高は圓)

在伯邦人總家族數	一〇、七九四
同所有土地面積	五九、〇七三
珈琲生産額	一二、〇九〇、〇〇〇
米生産額	一〇、八二八、〇〇〇
棉花生産額	五、六六九、五五〇
その他の雜收入	三八、一〇三、四〇〇
合計	六六、六九〇、九五〇

これを各集團地に分つ時は

モジアナ沿線

家族	一、七四二
所有土地	三五
珈琲生産高	一三二、〇〇〇
米	一、七七六、四〇〇
棉花	六二、四〇〇
雜收入	五、二二六、〇〇〇
合計	七、一九六、八〇〇

三角ミナス

家族	三一三
所有土地	一四〇
珈琲生産高	一、〇三四、〇〇〇
米	—
棉花	
雜收入	四六九、五〇〇
合計	一、五四八、五〇〇

パウリスタ沿線

家族	六五〇
所有土地	二、一八五
珈琲生産高	三九〇、〇〇〇
米	五四七、〇〇〇
棉花	三四三、八五〇
雜收入	一、六二五、〇〇〇
合計	二、九〇五、五八〇

アララクワラ線及サンパウロゴヤス沿線

家族	七三〇
所有土地	二、三二〇
珈琲生産高	八五八、〇〇〇
米	八〇五、六〇〇
棉花	三四三、二〇〇
雜收入	一、四六六、八〇〇
合計	三、四六六、八〇〇

ドラデンセ沿線

家族	三七七
所有土地	二、一三七
珈琲生産高	五一〇、〇〇〇
米	一五八、〇〇〇
棉花	三九五、二〇〇
雜收入	七五四、〇〇〇
合計	一、八一七、二〇〇

ノロエステ(麻州を含ます)

家族	三、〇〇四
所有土地	三一、〇七五
珈琲生産高	八、〇五五、〇〇〇
米	三、三七三、六〇〇
棉花	一、一五一、〇〇〇
雜收入	三、〇〇〇、〇〇〇
合計	一五、五八〇、〇〇〇

ソロカバナ線(北パラナを含む)

家族	一、七二四
所有土地	七、七一三
珈琲生産高	一、八七五、〇〇〇
米	一、二五七、四〇〇
棉花	三、三七三、五〇〇
雜收入	一、七〇〇、〇〇〇
合計	八、二〇五、九〇〇

聖市附近(中央線を含む)

家族	七九二
所有土地	一、七八〇
米	一八〇、〇〇〇
雜收入	一八、七五〇、〇〇〇
合計	一八、九三〇、〇〇〇

(聖市在住者を含ます)

サントス市及びその附近

家族	二四五
雜收入	一、四七〇、〇〇〇

ジュキア沿線

家族	四一四
所有土地	四七〇
米生産高	一、六九六、〇〇〇
雜收入	六三〇、〇〇〇
合計	二、三二六、〇〇〇

イグアペ地方

家族	五一九
所有土地	一〇、二一八
珈琲生産高	二二五、〇〇〇
雜收入	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	二、二二五、〇〇〇

南パラナ

家族	三五
所有土地	七〇〇
雜收入	一二二、五〇〇

マトグロッソ州

家族	二四九
所有土地	三〇〇
雜收入	八九六、四〇〇

尙右表中にはリオ市その近郊及び聖市を含まず、今それを現家族數一四、五〇七と按排し右表作製當時の總家族數一〇、七九四と比較して推定を行へば左の如き數字となる。

在伯邦人總家族數	一四、五〇七
同所有土地	八五、六五六
右には移住組合、南米企業組合の購入土地を含ます	
總收入	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

これ實に第一回移住民渡來當時その日の糧に汲々たりしに比較し、また十年前、年九千コントスの收入に驚きたるに比し更にその大なるに驚かざるを得ぬ。

祝同胞發展廿周年
青木洋服店
北西線プロミソン町
青木利七

Marcenaria Japoneza
MASAZI KOGA
Bauru' = Linha Noroeste
祝同胞發展廿周年
家具商　古賀工場
古賀政次
バウルー市プリメイロ・デ・アゴスト街

Hotel Progresso
I. SAWAO
Est. Bauru', Linha Noroeste
祝同胞發展廿周年
澤尾旅館
澤尾磯七
バウルー市驛前

ARMAZEM
Seccos e Molhados
K. YAMAMOTO
Pennapolis, Norsoeste
祝同胞發展廿周年
山本商店
北西線ペンナポリス市　山本幸作

CASA
Miyakawa
Lins, Noreste
祝同胞發展廿周年
宮川商店
北西線リンス市大福旅館內

Dr. H. SAITO
MEDICO
Baurú　Noroeste
祝同胞發展廿周年
醫學士　齋藤等
バウルー市
ロドリグスアルベス街五一五

Hotel Japonez
T. SATTO
Pennapolis　Noroeste
祝同胞發展廿周年
內外雜貨食料品
穀物仲買
日本旅館
佐藤常喜

祝同胞發展廿周年
內外品
雜貨商　宮崎商店
北西線ビリグ井驛

Hotel S. Paulo
de
K. TADA
Est. Biriguy　L. Noroeste
祝同胞發展廿周年
ホテル
サンパウロ
多田吉三郎
北西線ビリグ井驛ノ上

Hotel Japonez
祝同胞發展廿周年
中村旅館
中村忠吉
北西線ビリグ井驛通り
郵函……八五

CASA DOKI
SEIMATU DOKI
Armazem de Seccos e Molhados — Venda Varejo e Atacado
Caixa Postal, 224 —— Est. Biriguy —— Linha Noroeste
祝同胞發展廿周年
雜貨卸及び小賣
三共商會
藤澤醬油特約賣捌所
ブラジル語講習錄及字典取次
清土岐商店
薄利多賣、現金確實をモットーとして營業仕り候
北西線ビリグ井驛
郵函二二四
電話壹番

Hotel Yamamoto
Est. Biriguy, L. Noroeste
祝同胞發展廿周年
山本旅館
館主　山本政義
北西線ビリグ井驛公園上通り
郵函二〇〇

Marcenaria Japoneza
Irmãos Etto
Est. Biriguy, L. Noroeste
祝同胞發展廿周年
家具指物製造
江藤兄弟工場
北西線ビリグキ町サウダーデ街

二十周年に際會して
平野氏を憶ふ

一口に二十年と云つてしまうと短かいやうな氣持がする、然し二十年前の第一回移民がサンパウロに着いた時に、種々と世話した青年に五人男があり、その五人男を更に引廻はした者に一人の男がある、而して之を六人男と云ふ、所が此の六人男の内既に三人までが故人となつたのを見ると、二十年の歳月餘り短かいとも云ひ得ない。

然らば故人となつた三人とは誰と誰かと云ふに、それは日本へ歸つた仁平高と、植民地を建設した平野運平と、總領事館入りの嶺昌との三氏であるが、此の三名中尤も移植民に關係深い者は平野氏である、氏は第一回移民が收容所に着くや、鹿兒島縣の六十七人と、高知縣の十二人と新潟縣の九人と都合八十八人（二十四家族）の通譯としてガタバラ耕地に乗り込んだのである所が幸ひの事には、他の五名の通譯の派遣された處は、耕地の待遇が良くないとか、仕事が難儀だとか、賃銀が安いとかで紛糾を重ねた揚句が退耕の止むなきに至つたものが多いに反し、獨り平野氏の行つた耕地は支配人の好かつたのと、耕地の良かつたのと、もう一つ伊太利人の亂暴者が耕主や支配人に愛想をつかされた後に行つたのとで、日本人は案外の好遇を得、感激性に富む平野氏はそれ行れ、日本人の聲價を上ぐべきは此處だとして、此の耕地だけは滿點に近い及第點を得たのである。

しかし如何に優遇されても一生月給押當がいの通譯や監督で滿足する平野氏ではないし、又氏に依つて統一されてゐる移民もそう長くは珈琲園働きに滿足するものでないから、八年目の良い潮時を見計らひ耕地を退き、ノロエステ線ペンナの奥ドラード河の邊りに一大植民地を樹立したのであるが、之は日本人最初の植民地と云はれてゐる平野植民地こそ其であるのである。

今でこそ在伯邦人間に植民地と云ふ言葉は敢て珍らしくはないが、十三年の昔、ノロエステ一帶が森林に蔽はれてゐた時代に其處に植民地を創設したと云ふことは、或る意味から云へば無謀の擧とも云へやうが、そこは平野の平野たる所以で、死を決して植民地の創設に努力せるは後から見て利々の缺點があるにもせよ、兎に角一死を以て初志を貫けるは、後の同胞に取り大なる手本として感謝せざるを得ないのである。

斯くの如く平野氏は、初め六人男の中一番惠まれた耕地に派遣され、日本人は珈琲園勞働者として決して伊太利人やその他の者に優るも劣るものでないことを立證され、氏自身としては意外の面目を施せると共に、日本人一般の爲めにも大に盡した事とはなつたのであるが、尙ほそれよりも植民地創設者として植民地經營の困難なるを示すと同時に、行れば行り得るものだと云ふことを實際に現はし、日本人の持つて生れた武士的責任觀から死を以て植民者を激勵せるが如きは、最も氏の最後を飾るに價値あるものとする。

なほ平野氏の生前の功蹟を讃へるに當り、吾々の見落してはならぬ事は、松村總領事の平野氏援助の一幕である、意志堅固な平野氏も積く災難に氣をくさらして半ば失神の狀態に陷いれる時、精神的に將物質的に氏を援けた者は松村總領事であつたのだ、故に平野氏が植民地創設者として同胞に模範を垂れたとすれば、その中には松村總領事の援助の含まる事を忘れてはならぬのである。

祝同胞發展廿周年
宮田勝衛
モロンビー植民地

祝同胞發展廿周年
今回北西線アラサツーバ市に於て開業しました崭新機械を利用し最新の醫學と技術を應用して一般各位の御求めに應じます
齒科醫　寶臣衛

CASA OHARA
Ohara Irmãos & Cia.
Est. Araçatuba Linha Noroeste
祝同胞發展廿周年
珈琲棉精選、精米
內外雜貨卸小賣
大原商會
北西線アラサツーバ市

MACHINA DE BENEFICIAR CAFE' E ARROZ
Compram e Vendem-se Cereaes em alta escala
FUKUHARA SHINGUI & CIA.
Caixa Postal, 51—Tel. 18—Cafelandia
L. Noroeste—E. de S. Paulo
祝同胞發展廿周年
珈琲及米穀精選所
合資會社福島信義商會
珈琲、米、棉花並に雜穀農產物一切買入
北西線ペンナ驛カフエランジヤ町
郵函五一—電話一八

祝同胞發展廿周年
齋藤商店
北西線アラサツーバ市公園前

祝同胞發展廿周年
バール・コンフエタリーア
ポニカ
長尾與三五郎
北西線アラサツーバ市公園前

Casa Ichinose
Araçatuba
L. Noroeste
祝同胞發展廿周年
日本品、小間物、內外酒類
雜貨、金物、穀物仲買
一ノ瀨商店
一ノ瀨勘助
ノロエステ線アラサツーバ驛

Hotel Chitose
Est. Araçatuba
L. Noroeste
祝同胞發展廿周年
雜貨、小間物、和洋酒類
農產物仲買
御旅館千年
伊藤兼吉
アラサツーバ驛オスワルドクルス街
郵函……一三

CASA ANZE
MACHINA DE BENEFICIAR CAFE'
Vende e Compra Café e Cereaes — Armazem de Seccos e Molhados
Sede - Agua Limpa - Deposito - Rua Marechal Deodoro, 17, Araçatuba
祝同胞發展廿周年
珈琲精選所
珈琲雜穀仲買
內外雜貨
安瀨商店
本店　アグアリンバ植民地
支店ト倉庫　アラサツーバ市マレシヤル・デオドーロ街一七
郵函二〇八——電話五四

Hotel e Armazem Japonez
K. SHIROTA
Caixa Postal, 261 Est. Pennapolis L. Noroeste E. de São Paulo
祝同胞發展廿周年
穀物仲買
內外雜貨小間物
日本旅館
ノロエステ線ペンナポリス市アベニダルイズオゾリオ七六
郵函……一六一
代田喜市

私の二十年

本田丈右衛門

靜かに眼を閉ぢて過ぎ去つた廿年間の、私のブラジルでの生活を思ひ出して見ると涙がにじむ悲しい涙でなくて、この廿年をよく今日まで、それは辛ふじてではあつたが押し通してこれたものだと云ふ、むしろ感激の涙なのだ。

私は福島縣安達郡戸澤村の農家で生れた、山間の辟村で子供の時から土地の窮屈さに、あきあきして、どうか廣い大自然のもとで生活したいものだと憧がれてゐた、その後某新聞のブラジルに關する記事に『人口一里四方に一人』と云ふのに非常に興味をおぼへて早速渡伯を決心した當時村の人達は丸で鬼ケ島へでも出掛けるやうに云ひ囃して驚かぬものはなかつた。

廿年前の六月十八日に伯國に第一歩を印した私達は、早速數十家族のものと共にリベロン附近のドーモン耕地に送られた、鐘の音に珈琲園に出て働く、今までの日本での生活と餘りかけ離れた生活なので心に全く落ちつきが出ず、言葉は解らない、加ふるに日本で聞いた話しとその實際の間には甚だしい隔りがあつたりして、遂に私達數十家族のものは約二ケ月でその耕地を出てしまつた。

妻子を連れ貯へのない私はどうして一日も悠々としてゐられやう、トレーゼ・マイオ驛のソブラード耕地に入つたのはその後間もなくであつた、そして食ふ爲めに日曜祭日すら休むことなく文字通り一生懸命に働き監督にも認められて割りのよい仕事も振り當てられた、それを妬む人、惡く云ふ誰彼、人間の心のみにくさにあきれ乍らも、凡てを耐え忍んで一意專心唯全力を盡して苦闘すること二年半、前途に僅かながら光明を認めて喜んだも束の間、不運にも私は腹部の大病にたほれねばならなかつた、全く今日あるをさへ豫期し得なかつた程の重態で漸く一命だけ取りとめたものゝ二年半の汗と血の結晶は殘り少く私には再び飢えが迫つて來てゐた、ちやうどその時アルゼンチナ國の氣候風土が日本に似てゐることを聞いて旅費以外無一物の一家をつれてアルゼンチナに入國した、けれども其處には知り合ひ一人あるわけでなく探し廻つてやつと二週間後にビンツ：ラの手傳ひとして一日二ペソ八十センターボを得て食ふや食はずでまらなくなつて新しい職業を探すために妻子を殘して單身聖市に出た。

聖市にも職業はなく、で再び田舍で百姓をする決心をしてM線のピラコスチーナ耕地に落ちついたが其處で邦人監督の甘言に迷はされてすぐセルトンに走つて結果大失敗を招いた、しかしどうする事も出來ないので再び聖市に出でピラコスチーナ耕地の耕主ラピアナ氏に詫びを入れてその耕地へ歸參を許されて歸路についたが、運命の神の惡戯で買つた切符の大間違ひで私はドラデンセに降されてしまつた。

ブレジオンヌ植民地内の「本多丈右工門」氏の新珈琲園

この當時この附近には邦人は一人も住んで居らずその中に放り出されたかたちになつた私の心細さは例へやうもなかつた然し私は働かずには生きてゐられないので全力を盡して働き、やがては外人からも愛されて、二三ケ月の後には多少の餘裕もつき妻子を呼び迎へられると喜んだのも水の泡、私は又病に襲はれた、妻子から遠く離れてひとり病苦に呻吟しながら私は泣いたそして私は病犬のやうに外人の嘲笑を背にうけて僅かに十七ミルを懐にして、どうすることも出來ない病軀を當時アララクワラ線にゐた家長の家に投げた、その頃窮境にあつた家長を手傳つ

（十六頁へ續く）

祝同胞發展廿周年

遠藤商店

サンパウロ市

祝同胞發展廿周年

測量、電氣、土木、計畫
設計請負、工事監督
公認技師

小林弘一郎

Engenheiro K. Kobayashi
Rua Sta. Thereza, 2
1º. andar, sala 109
Tel., 2-3364
S. Paulo

祝同胞發展廿周年

石井洋服店

石井七五三一

聖市コンデ街四三

祝同胞發展廿周年

CASA TOKIO

カーザ東京

杉本芳之助

サンパウロ市

祝同胞發展廿周年

大阪商船會社指定切符取扱所

聖市旅館同業組合

小川　コンセレイロ・フルタド街十六　電話……二…四四七六　小川源右衛門

大和　コンセレイロ・フルタード街二　防迫健藏

常盤　コンデ・デ・サルゼーダス街四一　電話……二…六一七三　石原桂造

上地　ボニータ街一一　電話二…五七〇一　郵函　三三五　上地彌造

旭　コンデ・ド・ビニヤール街二一　電話……二…四一〇二　秋田彖三郎

末廣　コンデ・デ・サルゼーダス街二　電話……二…五六三八　中山忠太郎

東京館　マウア街二九一　仲村梁三郎

COLONIZAÇÃO MARTINS
ESCRIPTORIO CENTRAL
Caixa Postal, 1820 ═══ Telephone, 4-4406
Rua General Couto de Magalhães, 18-sob. ═══ S. Paulo

祝同胞發展廿周年

マルチンス殖民社

地主兼社長
ジョアン・ゼ・マルチンス

日本人部主任
緒方留吉

サンパウロ市

同胞の渡伯廿周年を祝し
併せて益々皆樣方の
御發展を祈ります

今年も昨年通り果樹苗木の販賣を初めました處御蔭樣にて續々御申込に預り難有御禮申上ます、殊に皆樣方より果樹以外の色々な注文がありますので此の廿周年を機とし此等の御申越に應ずる爲め「サンパウロ便利部」を設けました。

就きましては果樹苗木は勿論十數年來の經驗から自動車及附屬品の撰擇購入、新古サッコエンセラード其の他諸機械類等地方に於て御求めの困難な品一切の御世話を確實迅速に致し度い覺悟でありまから御必要の節はどしどし御申越下され度く御引立の程御願致します

聖市便利部主任
龜井干男

Luiz Takeo Camey
Av. São João, 140 S. Paulo

(十五頁より續く)

たがどうも思ふやうに運ばないいら〳〵した日を過してゐるうちに又、K氏に遇ひ現在の窮境を述べた處、同氏も同情して呉れて當時創始期にあつたソロカバナ線のプレジョン植民地の伐木請負にたづさはる事になり同氏より旅費の支辨を受けて原住地プレジョンに入ることゝなつた。

當時のプレジョンは全く一帶が原始林で、インデアナ驛から三十キロ、道とては無く辛じて森林中を荊を踏み分けて通つた、食料品なども日數をかけて肩で運んだものだ、害虫の毒で手足に腫物の絶える間なく、時には野獸に出遇つて膽を消したり、それは今日のプレジョン植民地に比べて全く今昔の感に耐へないものであつた、その原始植民地の中に既に井手磯太野氏その他の數家族が住んでゐた。

私は唯一人森に入つて盛んに木を伐つた、約束の給金を樂しみに腰のファーカを唯一の護身として何も忘れて一心に木を伐つた、そして遂に私は約束通り伐木を了つていざ給金を貰ふ段になるとK氏は渡して呉れぬそれどころでない大變氣を惡くしてゐるのだ。

日本人！私は日本人乍ら日本人程おそろしいものは無いと思ふ私はそれまでに何回となくそれに出遇つてゐる、他人のよくなる事を妬むと云ふ心だ、競爭心の一部の働きであらうが全くいやなものだ、私とK氏との約束の間にさう云ふ中傷が入つてK氏をそんな風にさせてしまつたのだ、仕方がないとあきらめるより外に道がない、私は又無一文で森林の中に棄てられた、私はもうどうにでもなれと云ふやうな氣になつて、西澤仙助氏を訪ねた、私は西澤氏に會はなかつたら今どうなつてゐるか解らなかつた、私の當時の氣持ちを善導して呉れた上に私に仕事を授けてくれたのは西澤氏であつた、私はその好意に報いるため、私はその好意に報いるために死身になつて働くこと二年半夢にも忘れられなかつた妻子を呼び迎へるだけの費用を得た、そして私は種々樂しい想像を胸に描きながら妻子を迎へに行つた、けれども私の考へは無慘にも破られて、三ケ年間扶養の任を怠つたのを理由として子供を渡して呉れないのみか、散々侮辱された、併し幾度かの不幸に私の涙は枯れてゐて、もう涙さへも出ない、谷底へつき落されたやうな空虛な淋しさを抱いてプレジョンに歸つた。

その後小笠原氏の好意で六アルケーレスの小作農を始め、やつと幸運に遇つて現在の土地を購ふだけの資を得て珈琲を植付け以來五星霜勞苦の結晶は珈琲樹五年物九千本、四年物三千本、三年物千七百六十五本となつてその日の暮しに足りるに至つた私はこの廿年をあまりに焦り過ぎて常に窮境に落ちた、私が知つた事は逆境に立つて逆境と闘ふ時にも周章てずに時機を待つと云ふ事と人間は悲しみや苦しみに遇ふ度に強くなると云ふこと、そして私は私の進むべき道を堅實に行くべきで、他人の大事業を見てそれに平行して行き度いと考へる前に自分を忘れぬと云ふ自覺だけである。

祝同胞發展廿周年
京都醫科大學專攻
陸軍病院長
ドットル 池田耕
毎日午前在宅(日曜不在)
聖市コンデ街廣場三

祝同胞發展廿周年
ジユキア線
日本人會
セードロ驛

Officina da Carpintaria
S. SAMESHIMA
Rua Gaspar Lourenço, 27
Villa Marianna—S. Paulo
祝同胞發展廿周年
建築請負業
大工、工場
鮫島新之助
サンパウロ市

祝同胞發展廿周年
渡邊銃器修繕所
サンパウロ市

Emporio Japonez
TOMEKITI KIRA & CIA.
Rua do Commercio, 2 = Tel. 2279
Pinheiros - Butantan, S. Paulo
祝同胞發展廿周年
雜貨商
吉良留吉
馬場復三
サンパウロ市

祝同胞發展廿周年
寫眞師 村田康男
聖市ビラピチングイ街二一
電話——二一二四五〇番

祝同胞發展廿周年
防迫菓子店
聖市コンセレイロフルタード街五

祝同胞發展廿周年
建築請負業
中野佐々記
聖市コンデ街六三

祝同胞發展廿周年
大河內
藥化學研究所
聖市アツセンブレア街三一
電話 二一—四八一八

祝同胞發展廿周年
取次一手販賣所
聖市 遠藤常八郎
醬油の女王「花の露印」
釀造主 太田吉太郎
聖市——郵函二〇〇七

O JAPÃO EM SÃO PAULO
MASAO SUZUKI
Rua São Bento, 60 = Telephone, 2-2788 = S. Paulo
祝同胞發展廿周年
直輸入商
鈴木商店
サンパウロ市

Casa Phiroshima
CHIOTA YASTARO
Rua da Consolação, 300 S. Paulo
祝同胞發展廿周年
家具商
カーザ廣島
塩田安太郎
聖市コンソラソン街參百番

初一念を貫ける
鮫島直哉氏
邦人中の一異彩

日本からブラジルへ來る人々の殆んど總てが農業者でなくてはならぬとしてある、そして農業者でない者は、成功覺束ないと云はれてゐる、ブラジルは農業本位の國であるから、農業に從事する謂はゆる農業勞働者を歓迎すること勿論であり、また農業に從事することの安全にして且つ成功し易いことは云はずもがなであるが、併し農業者でない者がブラジルへ來てはならぬとか、農業勞働を欲しない者は折角來ても駄目だと云ふことは餘りに近眼的であり、農業偏重に陷つた說と云はねばならぬ、と、云つて私共は、ブラジルの現在が最も多く要求する農業移民を否定するのではない、寧ろ出來るだけ多く農業者のブラジル來を望むものではあるが、併し農業移民でなければ來ても駄目だとか、來ない方が可いとか云ふことは餘りに非常識であり、民族發展の將來を考へざる近眼的な言だと思ふ迄である、先づ論よりも證據、生きた實例を曳き來つて、農業移民以外にもブラジルでは働く餘地があり働けば成功し得ると云ふことを示すなら、聖市で二十年間一日の如く建築請負に努力しつゝある鮫島直哉氏こそそれに當嵌まる好模範者である。

即ち鮫島直哉氏は人の已に知る如く鹿兒島縣出身であつて、今より丁度二十年前皇國殖民會社の渡伯移民募集に應じ來伯した一人である、氏は日本からの建築家であるが故に、サンパウロ市へ着いても珈琲園へは行かうとせず、遂に一人だけ聖市に居殘つて鈴木貞次郎氏の手引で建築界の棟梁ドットル・ラモス・アゼベード氏の下に働き一日三圓乃至四圓位ひの安賃銀を貰つて仕事の傍ら熱心に葡語の勉強をしたのであるが、その効空しからず、二年の後には細々ながらも獨立の建築請負師となつて今日の大を爲す基礎を造つたものである。

十年の昔同胞發展記念日に撮影せる建築請負師鮫島直哉氏の家庭

一體人の運命と云ふものは奇なもので、鮫島氏と船を同ふして來聖した者の殆ど全部が珈琲園に入り、初めの間は神妙に働いては見たものゝ、元々一攫千金を夢みて來た連中のことであるから珈琲園で一日八百レースの安賃銀では滿足の出來やう筈がなく、それに待遇問題や感情問題で支配人や監督者と衝突し、遂には同盟罷業を惹起して耕地を飛び出し聖市に舞戻る者も少なくないと云ふ譯で、鮫島氏は一躍中心人物に推し擧げられ、それ等の舞ひ戻り者を世話し職業の周旋を爲すことゝなつたのであるが、ブラジルは農業ばかりが安全だと決め得ない事情が二十年前に既に證據立てられたは見逃すべからざる皮肉事だとも云ひ得るのだ。

兎に角鮫島氏は移民では來たが出來得るならば日本で鍛へた建築家で立つて見たいとして、言語も通せず、日本人も二、三しかゐないと云ふサンパウロ市に蹈み留まり、苦戰惡闘と云ふ生活戰の裡に初一念を貫けるは偉なりと云つても過賞ではあるまい、また聞く處に據れば鮫島氏は、當時二十四歳の青年であつて慈愛深い母上から五年の期間を限つて渡伯を許されたと云ふのであるから、氏も最初は同胞共通の出稼者に過ぎなかつたやうではあるが、來伯後幾年ならずして母上の訃音に接したので最早や斯くなる上は日本に歸る必要もなく、またブラジルで成功するにはブラジルに永住の腹を固めぬ限りは何事も爲し得られるものでないとして、斷然出稼根性をチエラー河に押流し四年目に鄕里から夫人を迎へ、それから十六年目の今は十三を頭に二つづゝ異いの五名の男の子を持ち、子福長者で家庭圓滿の裡に諸外國人三十名近くを使用して、自己の天職とする建築請負業に勵むの傍ら、日本人會や、同仁會や、小學校後援會の會長若くは幹部員として公共の爲めに力を盡しつゝあるのであるが、氏の如きは最初移民として此の國に渡りながら一度もアゼンダに足を蹈み入れず、專心建築請負師として二十年を貫ぬき通せるは、在伯邦人中の一異彩として珍重すべき人物である。

祝同胞發展二十周年

重寶で美味で經濟の
三拍子揃つた三共の櫻節
櫻節乾魚製造販賣
三共商會

御歸國の節サントス御來遊の
節は是非弊館へ御立寄り下さい
御旅館潮
サントス市　前田吉太郎

祝同胞發展二十周年

GARAGE MIKADO
Avenida São João, 140 — Telephone, 4-004
SÃO PAULO

祝同胞發展廿周年

(TERRAS NA SOROCABANA)
Faz. Aymoré de Antonio Mendes Campos Filho e Cia.
Encarregado : Socio Gerente Dr. Alvaro Coelho
Presidente Wenceslau —— E. F. Sorocabana

理想鄕!!!
ウエンセスラウの土地

私等は賣出し後日尙淺いに既賣却地三千アルケールを突破せんとする盛況に至りましたのも土地豐沃にして理想鄕たるの實を失せんのも一因では御座いますが地主が同胞を善く理解して呉れることゝ大方諸賢の御盡力の致す賜物と深く感謝致します。

本耕地の特長
五萬アルケールの大地主なること
地權確實にして風土病皆無
萬作に好適なること
通車道四八達。
土地豐沃にして珈琲始め

地價
驛より一定せず二十
基米以内四百粁より八百粁迄
第一期地價三分の一を支拂ふ
第二期滿二ケ年後同
第三期滿二ケ年後同

支拂方法
此の間利子とす

勿論現金御購入の方には相當の割引致します。
地權は眞面目なる奮闘家には何時にても讓渡します。
御承知の如く當ウエンセスラウには州警兵騎兵隊の營及司令部があるので町の發展の素晴らしさと新開地に附物の一つと數えられる最わしいピストル騷ぎのない事は法治國民たるも厭はず居ります。
百聞は一見に如かず右の安住地として最も當を得て居ります。
一路御視察に御出なさい後日發展の御參考資料となりませう。

代理人　山田國三郎
同　松浦白洲
Caixa Postal, No. 5
Est. Presidente Wenceslau L. Sorocabana

Fabrica de Macarrão "SOL"
K. ITTO
Est. ARAÇATUBA L. Noroeste E. de São Paulo

祝同胞發展
二十周年
朝日
製麵所
伊藤嘉平次
北西線アラサツーバ市

◎日本茶販賣

◆左記各商店にて同一御値段にて差上げます

製造元　岡本製茶所
イグアペ植民地レヂストロ

元賣捌所　菅山商店
イグアペ植民地レヂストロ

特約代理店　福田屋菓子店
サンパウロ市コンデ街七番

同　エビス屋菓子店
ノロエステ線リンス町

貸自動車五二五號
増山房吉
リンス市「大福旅館前」

◆貸自動車業
自動車番號リンス五五〇
汽車の着く時は驛で御待らしてあります
北西線リンス驛
リオ・ブランコ街
清田安雄

Emporio Japonez
Armazem de seccos e molhados
TOMEKICHI KIRA & CIA.
Tel, 4-2279 Rua do Commercio, 2
Pinheiros S. Paulo

農具用諸機械
リオン會社
ブロンベルグ會社販賣代理店
食料品、金物類卸小賣
吉良留吉商店
聖市ビチイロス・コンメルシオ街二
電話—四—二二七九
馬鈴薯仲買、雑穀販賣
其の他農作用樂品の御用命に應じます

CASA AOKI
LINS, NOROESTE

營業科目—
呉服反物、帽子、仕立洋服、洋傘、靴、小間物、帽子、金物、貴樂、文房具、書籍、化粧品、和洋酒類、內外食料品、カーマ等
日本品一切取揃えてあります
雜貨部整理擴張、在荷豐富
青木商店
北西線リンス町（公園の角）
郵函……一三七
◇セルヴエージヤ・アンタルチカ飲賣
◇ガソリーナもあります

CASA EBIS
Confeitaria Sugayama
Lins L. Noroeste

◆和洋御菓子、酒類、清涼飲料
えびす屋菓子店
北西線リンス町ルイズガマ街二八
菅山光
◆日本茶特約販賣

Dr. Francisco Ayres
Medico, Operador e Parteiro
Est. Guayçara Linha Noroests

小兒科、婦人科、外科
トラホーム、クエリーダ・ジラーバ
十二指腸蟲獨逸式最新療法
リオ市に於て永年臨床の經驗あり
ドットル フランシスコ アイレス
グアヤサラ驛公園前

Dr. Paulo Novack
Medico Operador e Parteiro
Rua Olavo Bilac, 58 LINS

外科　隨時往診
婦人科　診
宅診ス
ドットール パウロ・ノバック
診察所ト住所
北西線リンス市
オラボ・ビラック街五八
電話……五六

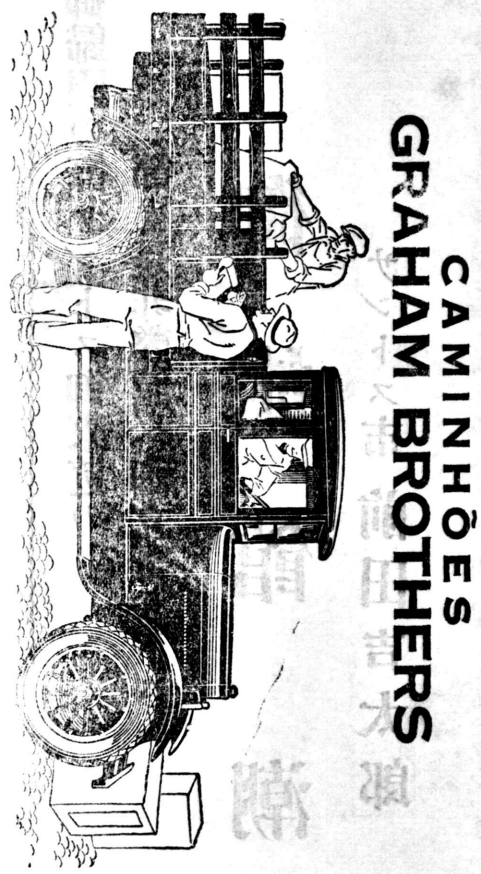
▲運轉手入用
サントス海岸で働くカミニオン使用の運轉手一名入用です
希望者は左記へ
サントス　潮ホテル
Rua Rangel Pestana, 44
Caixa Postal, 328 Santos

和洋御料理
ひさご亭
リンス町ルイズガマ街
◆女給入用、裁縫、料理も希望に依り教授す　山中ひさ代

歯痛は誰も御存じの様に最も苦しいものであります一度之に掛れば引き抜くより外に道がない様に考へられましたが然し今日
GFIASPIRINA
カフイアスピリーナ
が現はれましてからは忽ちその痛を取り去り後ち樂に齒科醫に行くことが出來ます尚模造品を避ける爲めに次の様な印を御注意下さい
BAYER

M. HARADA
ENGENHEIRO
Rua Santa Thereza, 2
1° andar sala 110
Telephone 2 - 3364
S. PAULO

建築、設計、製圖、土地測量、道路設計請負及び工事監督等
公認技師　原田政平
事務所　サンタテレザ街貳番二階一一〇號室
聖市電話……二三三六四



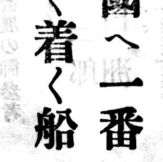
CAMINHÕES GRAHAM BROTHERS
このカミニオンは耐久力の強い材料を使つてありますので經濟の御使用車として最も適して居ります
■附屬品一式設備へてあります■

Chassis BD型	一噸積	12:800$000
" MDX型	一噸半積	16:500$000
" OD型	二噸積	20:250$000

ANTUNES DOS SANTOS & CIA.
Rua Barão de Itapetininga, No. 39-41
São Paulo

F. S. Hampshire & Companhia Ltd.
S. Paulo : Rua Alvares Penteado, 17 Sobrado
Santos : Rua 15 de Novembro, 147 Sobrado
Kanagawa-Maru Sahirá de Santos no dia 25 de Junho de 1928

神戸までサントスから六十三日
日本郵船の船は毎月一回南阿經由神戸向サントスを出帆します
船内衛生設備の完全、食事の優秀、乘組員の懇切については定評があります



母國へ一番早く着く船

神奈川丸
六月廿五日サントス港出帆
神戸又は横濱迄　一等　二三〇〇ミルレース　二等　一六〇〇ミルレース　三等　一〇〇〇ミルレース

◎日本から御呼寄せの便法
日本から呼寄せられる方の乘船賃を當地郵船代理店へ御拂込になれば乘船券を直接郵便にて送りになつて乘船券を日本内地の御本人に送りになつてあります
その指圖書を日本内地の郵船支店に乘船券と引換へられるのですこの取扱は郵船の無用や手數が省け且つ最も安全な便法であります
—出帆日取其他詳細は上記代理店へ御照會願ひます—
日本郵船會社

Terras na alta Sorocabana
Sociedade Territorial e Colonizadora
TEIXEIRA STAUT & CIA.
Est. Rancharia —— Linha Sorocabana

珈琲地帶として理想的土地賣却!!!
奥ソロカバナ地方に廣大な土地を有する土地植民會社テイセイラ・スタウト商會は今回ランシヤリアの土地一萬一千畝を下記條件で提供します
一、地價＝一畝六百五十ミルレー、一ミルル隔つる毎に五十ミルル宛安くし、二百五十ミルルまであります
二、條件＝最初一畝に對し五十ミルル宛の保證金を入れ六十日間に半額支拂殘金二年賦拂無利息
三、位置＝ソロカバナ線ランシヤリア驛より八百米突乃至廿七基米突の間
四、水質＝良好、豐富、健康地
五、交通＝町近く、驛に近く自動道完備
六、標高＝五百四十乃至六百メートル、霜害の患無し
七、地權＝絶對確實、諸證書御覽に供す
八、地質＝テーラ・ロッシヤでパウダーリヨ、フライゲイラ・ブランカ、ジヤンガーダ・ブラバ等の密林にして隣接地にある三年生のカフエー樹が十バルモに成長して居るのを御覽になれば適地なる事が肯れます
土地購入者にはサンパウロ、ランシヤリア間の片道乘車券を給し、代理人案内いたします、委細の御照會は下記へ
北西線リンス市
セッテ・デ・セテンブロ街二郵函一二A
代理人　金子大二郎
川原喜代太

新たに出來た 野口街道

博士の名譽を人の心に刻む爲

リオ・デ・ジャネイロの市長アントニオ・プラード・ジュニオール氏は去月英領亞弗利加黄金海岸アックラ市に於て黄熱病の研究中同病に感染し、自分で自分を研究の材料にし時々刻々變化の模様を記錄に殘しつゝ遂に斃るゝに至つた世界の恩人野口英世博士の偉大さを後の人々の心に刻まん爲め近頃イラジヤ郡なる前名サツコ街道を『野口街道』と改稱した

上山總督の後に 川村竹治氏据はる

兎角の評判あつた上山台灣總督は近頃久邇宮殿下台灣御旅行の砌り殿下に對し一鮮人不敬の行爲ありたる爲め引責辭職し其の後任に川村竹治氏任命された

慶應義塾大學生のフラジル見學旅行

慶應義塾大學產業研究會よりの依頼狀に據れば同大學生約二十六名は六月末日日本出帆の大阪商船マニラ丸に乘船ブラジル主としてサンパウロ州—視察の爲來聖するさうだが其の目的は夏期休暇を利用して生きた學問を爲すにあるのだと

井上社長出發

約一ヶ月サンパウロ滯留視察と社務とに多忙を極めた海興社長井上雅二氏は去る十六日午後多數の邦人に見送られ聖市發サントスに下り翌十七日の便船にて亞國に渡りアンデスを山越して秘露行きの旅に就かれたが歐洲經由シベリア鐵道で日本へ歸着は九月の豫定だと

村瀬秀二氏來聖

鹿兒島縣第一師範學校教諭にして大阪毎日新聞社募集の『新日本の宣言書』に一等を以て當選し賞與を得たる村瀬秀二氏は今回の布哇丸にて大阪毎日特派視察員として來聖二ヶ月間ブラジル視察に費して後亞國に向ふ順序だと

日本行きを急ぐ 大阪商船布哇丸

七月三日サントス發、五日リオ發にて日本へ向ふ『ハワイ』丸は豫定より三日延びた爲めガルベストンには寄港せず成るべく日を縮めて日本歸着を決行する

夫婦で射ち合つた 北西線の悲劇

ガランタン附近サン・ジョゼ耕地在住一邦人の家庭では常に風波絶へず些少の事でも爭ひなしでは納りが付かなかつたと云ふが其結果として數日前夫婦間に大激論生じ妻大竹タケは何處からか拳銃を携へ來り夫夏次郎に發砲したる爲め憤激したる夫は直にそれを奪ひタケを一發の下に死に至らしめ、又一方夏次郎も受けた負傷の爲め重態で生命覺束なしと

本日の本紙は廿頁

大方諸賢の厚き同情の下に發刊した本日の『同胞發展廿周年記念號』は二十周年に因みページを二十頁として讀者に見ゆることにした

祝同胞發展廿周年

ムンド ブラジレイロ誌

主筆 アントニオ・タバレリー

サンパウロ市 リベロバダロー街三三

電話 二—〇九二〇

求人

コッペイロ一名

至急入用家族小人數高給支拂ふ

希望者は左記へ

Av. Anna Costa, 163 Santos

辭典着荷

久しくお待兼ねの大武先生著の辭典着荷いたしましたが冊數僅かに百五十でありますから又直ぐ品切れとなる憂ひがあります御入用の方は至急御購求を願ひます

葡和辭典（大武先生著）

和葡辭典（大武先生著）

正價一冊廿六圓

特約販賣所

伯刺西爾時報社

瀨木商店

大阪朝日新聞縮刷版

毎月五日發行雜誌型半年七五ミル前月分全紙面を寫眞版にせる者 週刊朝日 毎月四回發行半年廿四ミル。小說及重要記事滿載今や移植民第二期に入り智識欲旺盛の際日本定價のミル換算にて發賣。代金は各地賣捌所へ現品は本社より各家庭へ直送致します、賣捌所のなき處又賣捌望の方は總代理店へ御照會ください。皆樣の農村があかるくなるように

大阪朝日新聞社

伯國總代理店

丹阪莊太郎

（郵函宛名）Caixa, 3919 S. Paulo

Dr. S. TAKAOKA

MEDICO E OPERADOR

Rua Fagundes, 8—S. Paulo

診察 午後三時より六時まで

ドクトール 高岡專太郎

聖市ファグンデス街八番 電話…二一四一八〇

母國の（書籍／新聞／雜誌）は 東洋書房へ Caixa, 3926 S. Paulo

求人

菓子製造に經驗ある人 三名

至急入用です、御希望の方は左記へ御照會下さい

末崎峰作

Rua da Consolação, 328 S. Paulo

土地無償提供

日本人諸君へサンパウロ線ベルス驛にある三アルケールスの土地を無償にて提供します

詳細は左記へ

Rua Gloria, 104 S. Paulo

貸間

二階にて室大きく清潔なる、シケイラ・カンポス街九番、シダーデに近し

月八十五圓

家族者獨身者何れにも良し、御希望の方は左記迄

Sr. Magdalena Petraglia

R. Siqueira Campos, 9 S. Paulo

賣却「理髮店」

場所グロリア街二四

道具一式付にて一コント四百圓

但家賃は二百廿圓

御希望の方は左記へ

遠藤商店

Caixa Postal, 2878

Rua C. de Sarzedas, 23 S. Paulo

コッペイロとして日本人青年一名

右至急入用に付志望者は左記へ由込みあれ

Dr. Max Rudolph

Av. Hygienopolis, 13 S. Paulo

祝同胞發展廿周年

小牧豊吉

サンパウロ市

來る六月廿六日午前八時當市サンゴンサー寺院に於てギード・デル・トーロ神父の誕生日祝のミサが執行されますから同神父に緣故深き公教信者は萬障繰合せ御參加あらん事を御勸めします

六月廿二日

聖市 在伯公教日本人會

不着荷物

一、蓆包みの行李 二箇 荷主 熊本縣人 藤本義雄

同 同 タマエ

一、蓆包みの布團 一箇 荷主 同 同 タマエ

右の品神奈川丸移民の荷物としてサンパウロ移民收容所よりブロミッソン驛宛送附せしも不着に就き御手數恐れ入り候へ共御心當りの方は至急左記宛御一報の程御願申上候

藤本又喜

Est. Promissão L. Noroeste

不着荷物

一、蓆で包裝した布團 一箇 荷主 熊本縣人 和田定春

一、蓆で包裝の行李 一箇 荷主 熊本縣人 白石實喜

右の品神奈川丸移民の荷物としてサンパウロ移民收容所よりグアランタン驛宛送附せしも不着に付き御手數恐縮に候へ共御心當りの方は左記宛至急御一報煩し度御願申上候

九谷群藏

Est. Guarantan L. Noroeste

紛失物

一、トランク一箇 木製大型 荷主 米田孝一

右の品六月八日サンパウロ移民收容所、リンス間に於て紛失候に就き御心當りの方は下記宛御一報の程御願申上候

神奈川丸移民 廣島縣人 米田孝一

Est. Lins L. Noroeste

BROMBERG & CIA.

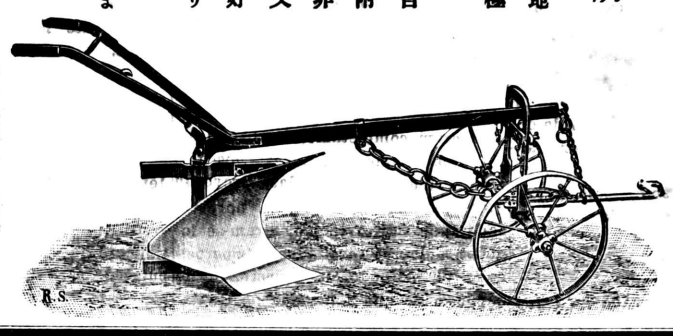
Rua Florencia de Abreu, 77 Caixa Postal, 756 S. Paulo

U・W印アラード 一手販賣所

アラードは傾斜地耕作用として至極便利です。

アラード小車は自動的で二筋の鑱附きにて使用者は非常に動力少なく又馬の操縱等には好都合に出來て居ります。

是非御使用願ひます。



農業器具機械一式

愚妻マサノ儀產後の肥立ち宜しからず百方手當を盡し候も藥石其の効なく去る五月廿八日午後七時四十分死去仕り翌廿九日ペナン共同墓地に埋葬致し候間此段謹告仕候追而葬送の節は遠路御會葬下され且多大なる御香典を頂き難有紙上を以て御禮申上候

昭和三年五月廿日

北西線ペンナ驛ノゲイラ殖民地

山下兼吉

トラホームには「タカ點眼藥」

愚妻ツチ儀永々病氣にて百方治療に盡し候も藥石其の効なく去る六日死去翌七日ペンナ驛共同墓地に埋葬仕候間此の段生前厚知諸彥に御通知申上候

追而葬儀の節は御多忙中遠路御會葬被下御厚志難有存候實は一々參上御禮可申候筈に候へ共御取込中其意不得乍略儀以紙上御禮申述候

昭和三年六月七日

グアランタン驛白水植民地

松下松槌

親

實妹 實姉 姪 長女 三男 次男 長男 夫 立井久保 立井保 立井 同門田 濱本 同久保 立井卯之助 濱本好治 松次郎 タケ 末太郎 吉 小太郎 三人 健 好 ハツ エ スヱ 三郎 トラヨ 井保 三郎 久乙 井増 濱口 河本茂一 同田浩 古賀 福島楠太郎 大竹京一 前田 青年會長 白水植民地 同 友 咸 石川増太郎 松本末太郎 前野友一郎 能島高次郎 吉永宗義 伊藤茂人 上村鶴治 八尋 加峰磯五郎 滿生市三郎 和田喜三郎 大平彌一 同岡秀雄 高岡仁友 同川政太郎 芥川健太郎 古川幸三郎 段浦渉 和田松市 菅原銀一 重岡亦助 下治米作 山下敏夫 牧野鮫島辰左衛門 畑石右衛門 福島拾吉 富田源平 吉岡記 山黒十藤藏 渡邊三郎 平山仙次郎 吉田甚吉 木村久太郎 木村

A celebração do XX anniversario da entrada dos primeiros immigrantes japonezes no Brasil

Faz, no presente mez de Junho precisamente vinte annos que entrou no Brasil a primeira leva de immigrantes japonezes, pois foi em Junho de 1908 que para aqui veiu, conduzindo-os o "Kasado-Maru'", da Toyo-Kisen-Kaisha (Cia. Oriental de Navegação). A bordo desse grande transatlantico nipponico vieram nada menos de 165 familias, num total de 793 pessoas. Foram 52 dias de oceano, desde o Japão ao porto de Santos.

Até então, o japonez era rarissimo no Brasil. Foi por iniciativa da Companhia de Colonisação Japoneza, com séde em Tokio, que se incrementou e se regularisou a corrente nipponica para cá. Preoccupada na localisação de familias japonezas no exterior, já sob os seus auspicios foram collocadas incontaveis nipponicos no Hawai, no Peru', em Norte America e na Oceania. Formou-se, então, no Japão, a Kokoku Shokumin-Goshi-Kaisha (Sociedade Limitada de Colonisação), que, reunindo um nucleo de fortes capitalistas nipponicos, se propoz a organisar a immigração exclusivamente para o Brasil. A Sociedade Limitada de Colonisação enviou para S. Paulo, nesse tempo, um dos seus directores, o sr. Rio Midzuno, que hoje passa a sua fecunda ancianidade em Curityba, capital do Estado do Paran, para firmar os necessarios entendimentos com o governo paulista. E foi devido ao seu esforço que se effectuaram as viagens iniciaes de nossos patricios

• • •

E' interessante notar que os japonezes constituem uma raça por indole retrahida. Elles amam, mais que outro povo, a sua terra natal, e sonham ahi viver e ter o seu tumulo. Estão no severo regimen, ainda, do familiarismo, ou melhor, do patriarchado.

O nipponico é um povo grandemente agricola. Quem estudar a historia do Extremo Oriente, constatará que desde os seus primordios, ha 2.500 annos, elle praticava a agricultura. E por causa desse seu caracter fortemente tendente á cultura do solo, elle quebra a seu sedentarismo, e pela agricultura vae onde fôr preciso, até onde se diga que ha um futuro a colher.

E' commum esta phrase na bocca do japonez: "A vida é possivel em qualquer parte", o que, pela sua expressão de universalidade, parece estar em contradicção com o seu espirito retrahido.

Ama, com profundo amor, a agricultura, e, para a ella dedicar-se, elle não mede os milhares da distancia. E no amanho da terra e na colheita dos frutos elle vae ao sacrificio e á morte. Entretanto, esse gosto, esse quasi affecto nipponico pelo trabalho da terra, parece não ter sido bem comprehendido pelos outros povos.

E' por isto que achamos em perfeito accôrdo, em exacta coincidencia com a mentalidade japoneza, aquelle famoso distico que está sobre o alto da Hospedaria dos Immigrantes de S. Paulo — **O SOLO E' A PATRIA; cultival-a é ENGRANDECEL-A.**"

O japonez comprehende e sente a vigorosa expressão e o grofundo sentido dessa phrase. Para nós, estão justapostos numa idéa unica estes dois vocabulos — o Solo e a Patria.

Immigrantes, todo o japonez, ao receber a explicação daquelles dizeres de ouro, guardam delle a mais indelevel impressão. Homem algum de outra nacionalidade leva, dahi por diante, o coração e a recordação, a sinceridade e o pensamento, mais feridos pela luminosidade daquellas palavras symbolicas.

• • •

Por occasião da chegada do transporte a que alludimos, entre outros jornaes, o "Correio Paulistano" escreveu: "No dia 19, ás 2 horas da tarde, desembarcaram no porto de Santos os primeiros immigrantes japonezes, que, no mesmo dia, foram embarcados para S. Paulo. O "Kasado Maru'" que fez o transporte, é um amplo transatlantico, com largas commodidades, e demonstra um notavel estado de hygiene em todo o seu interior.

Esse conforto — prosegue ainda o mesmo diario—deve-se á Companhia Japoneza de Colonisação e á Kokoku-Shokumin-Kaisha.

Tem sido muito notado, geralmente, o espirito de ordem, de disciplina, o caracter honesto, o costume de aseios dos viajantes. E isto quer nos trens em que viajam, quer na hospedaria onde ficaram installados.

De facto — affirma o "Correio Paulistano" — não se pode contestar que o Japão é o primeiro paiz do mundo". E esse jornal dedica meia pagina dessa edição a essa leva, accentuando, ainda, o gosto pela leitura dos mesmos, a sua cultura intellectual, a lealdade do seu coração.

E todos os demais jornalistas que estiveram em visita aos nipponicos recem-chegados exararam, nas suas folhas, iguaes impressões.

• • •

A lavoura do café era, como se concebe que o fosse, um genero agricola original, novo, para os novos emigrados. Elles se viram, pois, diante de processos de trabalhos ruraes que lhes eram completamente estranhos.

E' claro que este facto, nos primeiros dias das fazendas, provocou atropelos e confusões. Mas, normalisado tudo com o tempo, viram-se logo os melhores resultados da operosidade, do methodo, da honestidade do japonez, do que a fazenda de Guatapará foi a primeira e mais evidente expressão.

Aquelles atropelos e aquellas confusões foram, em boa parte, complicados, aggravados pelos fazendeiros: desconhecendo absolutamente o temperamento dos seus novos auxiliares, e, para isto, concorrendo tambem uma possivel falta de tacto psychologico, — quizeram os melhores agricultores dar aos filhos do Extremo Oriente o mesmo trato que davam aos europeus, aos latinos.

Mas os conflictos foram passageiros e nada notaveis.

• • •

Após a sua primeira viagem, o transatlantico "Kasado Maru'" realisou outras excursões ao Brasil, não regularmente, portando novas multidões de immigrantes do Japão.

E' de se notar que, com esses, vindos mais tarde, as complicações de principio não mais se registaram; e isto porque já os anteriores facilitaram a empresa, aqui os residentes, no Japão os que eventualmente para lá regressavam.

Hoje, os nipponicos constituem, em algumas regiões do Estado de São Paulo, uma grande força no tratamento dos cafesaes, pela excellente especialisação que adquiriram: são cuidadosos e expedictos, intelligentes e cheios de bons planos tendentes ao permanente melhoramento dos processos.

• • •

O Japão, o quanto para elle foi prodigo a Natureza em uberdade e bellezas, foi mal aquinhoado em extensão: é pequeno por demais.

Já se tem observado, innumeras vezes, a necessidade que lhe é contingente de emigrar parte da sua população, para outros pontos do globo.

Para o Brasil, para onde se voltam os interesses japonezes, a emigração tem sido, annualmente, num maximo de 7 ou 10 mil pessoas. Essa "exportação", para descongestionar a população de meu paiz, é exigua por demais, levando-se em conta que a natalidade japoneza é de 700.000 almas annuaes. Para o normal desafogo do Japão, necessario, pois, seria que o exodo fosse pelo menos de 70.000, em cada anno. Mas isto é quasi irrealisavel: a distancia enorme, de opposição planetaria, que separa os dois paizes, exigiria para esse trabalho nada menos de 150 navios de transporte!

Contentemo-nos com a remessa annual de 10 ou 12 mil, por emquanto.

• • •

O governo do Japão, para auxiliar a emigração, offerece as conveniencias possiveis aos seus subditos que desejem ir para outros pontos. Ha, entretanto, paizes que não acceitam, por particulares conveniencias, a immigração japoneza; e o governo do Japão não obriga, não pode obrigar que se o faça.

Mas o immigrante japonez não sobrepesa aos centros urbanos. Elle sabe fazer o sacrificio de penetrar pelas regiões incultas, sem conforto, para dahi arrancar os elementos da natureza necessarios á humanidade e á sua civilisação.

E' interessante fazer notar que o governo do Japão não se tem descuidado de estudar, com especial attenção, qual a melhor parte do seu povo que satisfaz aos interesses do Brasil, a que corresponde melhor aos trabalhos a que se destinam. E o governo do Brasil, por sua vez, em longo estudo, deverá dizel-o tambem, collaborando, assim, com o nipponico.

Felizmente, nada, nesse sentido, tem obstado que a immigração japoneza se mantenha firme. E os meus patricios têm sabido contribuir para o crescente entrelaçamento de amizade entre as duas patrias.

• • •

O Brasil — o seu governo e o seu povo — é um paiz eminentemente liberal e justiceiro. Não existem, dentro de suas fronteiras, preconceitos e embates de raças. Após 20 annos, constatamos que essa nobre nação não é como as nações anglo-saxonicas, onde não existe a igualdade das raças.

Caracter franco e leal, affectuoso e brando, o brasileiro acolhe e trata ao estrangeiro como acolhe e trata a um irmão.

O Brasil é o paiz da Justiça.

Nós, os japonezes, que tomamos o Brasil por nova patria, trabalhamos, aqui, contentissimos.

E o estimulo nos é tal, que não muitos de nós conseguiram criar e consolidar fortuna, notadamente os que vieram nas primeiras phases.

• • •

E'-nos grato, profundamente, constatar que se realisaram os prognosticos do redactor do "Correio Paulistano" ha 20 annos, o sr. Sobrado, quando teceu apreciações aos jagonezes.

Nesta etapa de dois decennios de vida e operosidade da colonia japoneza no Brasil, nós celebramos com especial, indizivel agrado, a ephemeride — publicando esta edição extraordinaria, commemorativa do acontecimento de tanta significação para as duas nações.

E fazendo-o, levantamos com enthusiasmo, um — Viva ao exmo. sr. presidente da Republica Brasileira! — que deverá receber a nossa saudação como o chefe maximo e o mais genuino representante deste nobre e hospitaleiro Brasil.